

櫻蔭グラウンド開きに臨みて (舊稿)

過日は櫻蔭會のグラウンド開きに御招待戴きまして、終始整然たるその式典に列する光榮を得ましたことを感謝致します。そして私の常に希望して、しかも得られなかつた美しい整つた女性のポーズを見せて戴いたことを喜び、今後の發展についても少からの期待を持つ次第でございます。

私の經營してをります洗足高等女學校の周圍の町に於ては、非常に運動が盛であります。それで各小學校あたりから勧誘される事も、一再ではありませんが、私はそれ等に對して一度も選手を送つたことがありません。概して市の中央の學校に比して、生徒の體格はいゝ筈でありますし、運動場についても訓育方法についても、選手を出す資格は十分であると、信じてゐます。けれど、私は敢てそれを

拒絶してゐます。その結果、私は運動ざらひの誤解を受けてをりますが、然し私は體育には十分の理解を持つてゐるつもりであります。たゞ私には一つの主張があります。體育によつて女子が洗練され、日常生活に活々とした女性美が持續される所の訓練を、私は要求するものであります。

私が女子の體育を痛感することは、人後に落ちないつもりであります。正しい體育が普及された時、我帝國がます／＼光輝ある發展をとげるといふ、その大きな結果を忘れてゐるものではありません。然し私は今の一般風潮に對し、是認しにくいものを感じてゐます。女子の體格には、女子獨特の美點がある筈です。解剖學的に生理學的に、その美しさを發揮させるもの、それが本當の體育ではありますまいか。それが女子の作法と矛盾したり、甚しきは女子の精神的の美しさを破壊することになるならば、その訓練は、多大の犠牲を拂つて、男子に似て非なるものを作り出す爲の努力をしてゐるといふに過ぎません。否、獸的の女子を作ることは出來ても、斷じて人としての女子は作りあげられるものではありません。

ん。

輓近非常に女子の體育に、注意が拂はれてゐます。その結果として私は二様の型をはつきり見ることが出来ます。電車に乗る時の軽快な形、中心を失はぬ姿勢で、軽くしなやかに釣革をもつた姿、軽々と荷物を小脇にかゝへて、シャンと立つた様子、この奇麗な藝術的な型は、洗練された體育の結果だと、喜ばずにはゐられません。然し二の腕もあらはに、釣革を引張つてゐるのや、腕力的に人間に割こんで腰かけたのや、太腿の輪廓をはつきり見せてふんばつたのや、これももしスポーツ型といふものであるならば、實に體感に値するものであります。

女子の麗しさの中に、羞恥の念があります。何かの場合に顔を赤らめるといふことは、處女の非常な麗しさであります。然し錢湯などに入つて見ますと、誰も裸體で平然としてゐます。いかに女子同志とはいへ、お互に人に見られたくない姿でゐるのですから、知人にあふのも恥かしいのが本當だと思ふのに、いつの間にか羞恥の念が消えてしまふやうです。それさへ私どもは殘念に思つてゐま

す。然るに現今のスポーツ熱は、男女公衆の前に女子を半裸體にした上に、精神的のつゝましさとか、はづかしさとかいふ氣持をも、捨てさせてしまはうとしてゐます。それが果して眞の體育の目的でありませうか。神宮外苑あたりで競技のすんだあと、休憩室に這入つた選手連の姿勢は、忌憚なしにいへば、醜惡そのものであります。半裸體のまま、仰臥してゐる。足を摩つてもらつてゐる。然もその摩り手は、男子の方がいゝといふのです。それで疲勞が恢復され、あとの精力が出るといふのです。さういふ姿を見せ、さういふ風に體にふれられて、それで羞恥の念がわかないといふのは、沙汰の限と思ひます。男女が身體に精神に不思議さを藏してゐる爲、互に神祕の幕を窺ふことに好奇を感じ、然も近よることを憚るといふ心持、それが非常な魅力になるのであります。夫婦生活の結合は、それ故に神聖視されるのであります。童貞とか處女とかいふ語は、もつとく標準を嚴格にすべきもので、互の肉體を平氣で眺めること、互の肉體に平氣で觸れることは、一種の冒瀆ではありますまいか。

私が體操遊戯を校内だけのものに止めて、他に選手を出さぬのは、決してスポーツそのものを輕視するからではありません、否非常に多大の希望をかけてゐる爲で、女子獨特の美、顔にも姿にも麗しさの漲る様に、スポーツの力の現れることを希望し、その點まで達しさせようと努力するからであります。

この度櫻蔭會が率先してあのグラウンドを作られ、未來の女子スポーツの爲、有力なる後援者となり、指導者となつて下さるといふ事は、私としては實に喜に堪へない次第であります。産婆役として男の方も這入つてをられる様ですが、これは近き將來に女子が代つて下さる様に、そして全國的に良きコーチが、このグラウンドから出られることを希望致します。整つたしをらしい女性美と、根強き力のあらはれが、藝術的にまで作りあげられた、あの日のすべての運動は、本當に涙ぐましいものであります。普通スカートの上に體操服のまゝのランニングは、櫻蔭會主腦部の方がやはり私と同意見を持つてゐて下さる爲ではないでせ

るか。それから最後のマスメームの、あの總合的生理運動が、非常に美しかつたことも特筆したいと存じます。勝敗の念に、肩をはり腕を扼してゐた選手の方々が、曲線運動に氣分の和らぎを現はされた時、心もいかになごやかになられたこととせう。たゞ一つ各自の保健の爲の一齊運動、あれは非常にいゝ運動と聞いてゐますし、一般に御奨励になりたい思召、これも結構なこと、存じますが、大人などがやりますと髪が亂れるといふ話も聞いてゐますし、又腰部筋肉の動きなどを見ました時、やはりあれは人に見せる爲にすべきものではないと、痛感致しました。一般的のあの術を、多少女子的に變化させて戴くことも、大切かと存じます。

次に集會者の中に、少し停車場より遠いといふ非難を持つてをられる方もあり、又その爲に發展に支障が生じはしないかと、云つてをられた方もありました。然しこれは單に、批評し傍觀すべきことではなく、この舉に双手をあげて贊

成するものが、極力運動し、その不都合を除くべきだと思ひます。この度のことは目蒲電鐵社長の五島慶太氏の、非常な御盡力の結果と承つてゐます。もし我々が広くこれを利用し、足繁く通ふことになれば、必ず電車支線の設備も、して戴かれることゝ信じます。これは結局我々教育者の、十分努力なべき點と考へます。

要するに櫻蔭グラウンドは、發展する性質のものであり、又發展せねばならぬものでもあります。幹部の方が大に研究して下さい、日本女子獨特の體育殿堂として、世界的にまで進出して戴きたいと希望してやみません。そして又さういふお仕事に對しては、喜んで參加させて戴きたいとお願ひいたす次第でございます。

貞操觀

貞操とは、正しく我身を持つることでもあります。故にこれには男にも女にも、未婚者にも既婚者にも、そして又、公的生活にも私的生活にも大切なものであります。然し今私は世の母親に訴ふる關係上、殊に性の上に於ける貞操に就いて述べたいと思ひます。母親がその子女の將來について、最願ふ所ものは、恐らく正しい結婚生活を営ましむることでありませうから。

私は性問題を取扱ふ資格はありません。然し第三者の立場である爲に、信じた處を忌憚なく發表し得ます。あらゆる力の中で恐らく性慾ほど強いものはないであります。その爲には驚くべき勇氣をも奮ひ起します。すべての營には、必ず苦痛が伴ふものであります。性の營には喜のみが感ぜられません。相互が我

を忘るゝ瞬間、生命を賭するほどの一種の法悦が興へられます。それは生命の創造といふ大任を果さんが爲に、天の興へ給うたものであります。この嚴肅なる事實を遊戯氣分化するは、天に對する冒瀆であります。

今、顯微鏡下に卵子を置き、精虫を近づけますと、その多數のものの中、最優秀なるものが、活潑なる運動を開始し、非常な速力を以て卵子中の一に近づきます。すると卵子はその精虫を卵壁内に完全に抱擁して、又もとの正しい卵子の形にかへります。あとからどれだけ精虫が近づきましても、その卵子は再び同一の活動を開始することはありません。つまり同一性質の精虫でも唯一つのものとのみ結合し、他を排斥するといふ形を、はつきりそこに見ることが出来ます。今第二の實驗として、試に精虫にアルコール分を落し、然る後卵子に近づけますと、精虫はそれこそけつまろびつ卵子に近づきます。然して同じく抱擁作用が営まれた時、その形は、前のに比して歪めるものになつてゐます。次に卵子にアルコール分を落し、精虫を近づけますと、卵子は癡醉状態の爲、精虫を抱擁しても、

収縮することを忘れ、第二、第三の精虫が進入した時、これを防ぐことが出来ません。これは私が若い時に見たものでありますが、今でも恐ろしい事實として、はつきり眼底に残つてゐます。尙今日の學說によれば、男女の結合の結果、女性の血液の中に、今までなかつた素質のものが作られるといふことであります。血統を尊ぶ我國に於ては、ことにその純潔を誇とするものであります。同性質の精虫でさへも一時に唯一つしか受入れぬといふほどの強さを持つ卵子、それによつて純粹なる血統が傳へられるといふ事は、不思議な、しかも尊き事實であります。又不健全の精虫によつて、卵子の形が歪められるといふことは、そこに宿つた生命の、前途の暗黒を明らかに示すものであります。私はこゝに貞操の根據を置きたいのであります。健全なる状態に於ける兩性の結合、そこに創造せらるゝ生命、その前途は洋々たるもので、それによつて結婚生活は、祝福されるのであります。正しい夫婦間に於ても、不健全なる遊戯氣分で、結合する場合があつたならば、それは貞操の意義を忘れたものであります。まして己が慾望の赴くがまゝ、

に、第二、第三のものと、野合するに至つては、さたの限であつて、法律に觸ると否とを論ぜず、確かに姦通罪に價するものであります。

貞操の本義が、正しき種族繁榮にありとすれば、男女の不節制の結果、大なる歡喜が與へられなくなるのは、當然であります。今日多數の人が、この歡喜を以て人生最大の目的の様に思つてゐますが、それならばいよく貞操の必要が高唱されなければなりません。結婚前の純潔はこゝに於て、益々その光輝をますものであります。生殖細胞の完成せぬ中の両性が、誤つて相近づくといふは、やはり貞操を破つたものであります。よしや又相近づくまでに至らなくても、情慾の赴くがまゝに、抑制しなかつたとすれば、それが後々まで、精神的に又肉體的に、禍根を残すことゝなります。女子には排卵の機會が與へられますが、男子にはそれが無いから、抑制することは不可能だといふ説も聞きますけれど、それは、修養と訓練とによつて、決して不可能ではないので、もし旺盛なる精神力を缺く、憐むべき人には、他力的に沈靜せしむる方法もある筈であります。何卒未來の我

の爲正しき純潔なる生活を営ましめたいものであります。然しもう一步進んでいへば「女を見て色情を起すものは中心既に姦淫したるなり」であります。それを防ぐには、男女兩性が、言語動作を謹み、化粧服装等を端正にすること、肉體的接近を避ること、社會一般が裝飾設備等に挑發的分子を排除することにあります。が、電車は壽司詰にされ、敗類的映畫は歡迎せられ、公娼は許可せられてゐます。誠に慨嘆に堪へざる次第であります。せめて心ある人が我身の爲、未來ある子女の爲、出来るだけ危きに近づかざる用意がありがたいものと存じます。

一時流行したる結婚解消問題の真相は知りませんが、これを性知識の不足に起因すると見る説もありましたが、現今は知識の如何でなしに、性問題に興味を持たぬ女性も中々多い様です。それから結婚後數年の後に起る倦怠期といふのも、精神的のものではありません。多くの場合肉體上の倦怠であつて、原因は不節制の結果、對手の肉體のすべてを知悉したと考へ、珍らしさがなくなり、魅力がなくなるから起ることあります。昔は大抵の場合、家族が多數同居してゐました

から、自らなる節制を強いられ、不満と焦燥とによつて、いつまでも互の魅力を感じ、興味を永續して行つたものでありませう。別居生活の多くなつた今日、妻はよほどしつかりした考を以て、生命の創造に、よりよき適當なる時を、眞面目に考慮する必要があります。

母親の立派な人にいゝ子供が生まれ、父親のえらい人に不肖の子が出来るといふことは、誰も知つてゐる事であります。私はその原因について、かう考へます。男子の所謂社會的にえらいといはれてゐる人が、必しも品性が高潔で、性的に正しいとはいひ得ません。不節制で細胞の成熟しない時に、アルコール氣分享樂氣分で接近した爲、生れた子供は、不幸にも親の罪を負うて不肖の子と稱せらるゝのであります。女子の立派な場合には、所謂正しい結合が行はれます。適度の抑制は一種の崇高さを伴ひます。遺傳には素質が大事で、後天的の知識などいふものはさまで役に立つものではありません。私をしていはしめるならば、良き素質をもつて、しかも學問などであまりに縛られない、ゆつたりした母親があ

つたならば、その子は一層優秀であらうと思はれます。然るに今日、優秀な素質を持ち、明晰な頭腦を有する女性が、或は思索に耽り、或は研究に没頭し、若くは藝術に精進して、精神的愛情は十分保有しながら、結婚生活の上に、琴瑟相和することの出来ないのは、残念なことであります。然も多數の人が獨身若くは晩婚であることは、國家としての、大なる損失であります。ともかく世の結婚生活者は、正しい生命の創造が、人の小細工では出来ないものだといふことを、明らかに知つて、正しい祈によつて、興へられんとする希望を持つことが大切であります。

私はこの機會に再婚について、考へて見たい、と思ひます。男子の再婚は一般に認められてゐますが、これは種々の意味に於て、やむを得ないものでありませう。母親を失つた遺子は、第二の母親によつて家庭味を味ひます。時には前の悲しみを全然忘れ得る場合もあります。寂しい家庭に置かれたものは、決して健全な發達をしません。要は人選にあります。次に女子の再婚については、種々異説

もありませんが、私の聞いた實例によれば、夫の子數人と、妻の子數人とが、夫婦間に新に生れた子供と共に、非常な朗らかな生活を營んでゐるといふこともあります。實際問題としては、去就いづれの場合もあり得ることでありませう。この際、貞女兩夫に見えずは、福澤先生式に解釋せらるべきもので、再び新なる家庭に這入つたとすれば、過去のすべてを過去として、現在の我を正しく守り得る決心を持つべきものでありませう。私の子供の時の友達に、高等女學校在學中兩家から結婚申込をうけた人がありました。その中の一人と結納の取かはせがすんだ時、日露風雲危機を告げ、軍人であるその許婚者は、招集せられました。そこで佐世保から、長文電報を以て、結婚破棄を申込んだ時、父はその娘を連れて遙々佐世保に赴き、誓約に二言があるべきでないことを、告げました。先方の人は出征幾何ならずして、名譽の戦死を遂げました。覺悟の前とはいひながら、その時の友の心はどんなでありましたらう。十七歳の寡婦は直に緑の黒髪を絶ち、その切下のまゝ、依然通學をつゞけてゐました。今日の女性は黒髪に對する愛着を持た

ず、平氣で斷髮してしまひますけれど、その當時の女性に取つては、落飾といふことが、どんなに悲惨な事實であつたかは、想像以上でありませう。それ故に時の新聞は、大なる見出しを以て之を賞讃したのでした。越えて數年、同じ新聞は未亡人の亂行と題し、その友が髪をのばして、はじめに申込まれた一方の軍人の處に嫁したことを報道しました。私はいたましい事實として、これを忘れることが出来ません。他の精神的苦惱に、何らの痛痒を感じざる新聞記者が、賞讃にも誹謗にも、單なる一の特種として使用するといふことは、あまりに不條理なことでありませう。一方かやうの周圍である爲に、十七歳の少女が、他律的に髪を切るといふことにもなるのであります。かゝる事實に對しては、所謂第三者の反省を乞ひたいと思ふのであります。

産兒制限は社會政策上、大切だといはれる様ですが、よしやそれが本當であるとしても、他の方便の爲に、一の生命を絶つといふことは、恐るべき罪惡である

と思ひます。兩性の營によつて、天の興へ給うた生命は、數十年の未來を約束せられたるものであります。どれだけの天稟を持ち、どれだけの仕事をし得る力を持つてゐるか分りません。世の中の都合からいへば、働くだけ働いて、死んでゆくことが一番いでせうけれど、老人の死よりは若者の死が、惜まれもし氣の毒がられもするのは、未來があるからであります。それで子供の死がいたましいのだとすれば、親の愛欲の犠牲にせられて、生命を絶たれるものは、ありとあらゆる中で、一番悲しいたましい死であります。もし物がいへたなら、そのものは、何と訴へるでせうか。然るに今日、多數の人は、これを合理的方法と考へて行つてゐるのであります。自分の抑制といふことを考へずに、一種の殺人罪を犯して平氣であるものであります。私の國では昔から、まびくといふ言葉があつて幾人かの後に生れたものは、當然親の手で處理せられる様な習慣があつたと聞いてゐます。或處で型の如く、産婦が自らその乳兒を始末しようとしたら、どんな方法を執つてもだめであつたので、仕方なく育てたといふのです。その母親は、

定めて、夫にも親類にも近處のものにも、面目ながつてゐたことでありませう。然るにその生命を奪はんとした子供の、後年の榮達を見た時、母は嚴肅なる自然の前にひれふす外はなかつたとのことであります。

生れて來た子供を殺すのは罪惡であるが、受胎時から餘り過ぎてゐなければ、それは人の子と見るべきものではないといふ人もありますが、卵子は精虫は生きてゐるのです。たゞ適者生存の法則によつて、多くは自然に捨てられるのであります。然るに二者の結合が出来るといふのは、既に選ばれて、創造せられたる生命であります。殺すに適當なる時期といふものは、考へ得られません。世の識者が、こゝに思を致して、根本的の案を考へて下さることを、私は切望するのであります。

血統の純正を尊ぶ我國に於ては、古來貞操觀念が非常に強く、幾多の烈婦は、我身を守る爲に死に伏しました。永遠の眞理の前には、一人の生命は軽いもので

ありました。然るに今日はその考が誤つたものとして取あつかはれてゐる様であります。教育の効果の條に擧げましたのは、極端の例でありませうが、この頃勉強の爲に、最後のものを提供する人が、中々多いといふことでもあります。又或牧師を訪ねて、その善惡の批判をきゝに來た人がある相です。「自分は何も悪いことをしない、他人に迷惑をかけない、自分の大なる目的の爲に、勉強するといふ事の爲に、自分のものを自分が使ふ、それが悪い事でせうか」といはれたので、返事に困つたとのことでした。それから、家産が傾いたけれど、そのまゝ専門學校を續け、立派に卒業した娘があつて、郷里のほめものになつてゐたのですが、これは數人の支那人の世話になつてゐたといふことでした。又或中等學校に中途入學した人が、成績良好の爲、級長までしてゐたのですが、後に専門學校に入り卒業間際妊娠したので、もと自分の勤めてゐたことのある醫院に行き、墮胎させてもらつて、卒業後結婚し、開業してゐます。又或人は自分の墮胎して得た經驗を研究資料として、博士論文を提出したとか聞いてゐます。私は貞操を破つた、

又一種の殺人罪を敢てした人に、死を以て迫るものではありません。その人達が罪惡の自覺によつて、生れ代つた敬虔な心持で、世の中の爲に盡さうといふのなら、所謂善人といふものよりも、どれだけ價値ある人になつてゐるか、解らないと思ひます。然しこれ等の人は、罪の自覺を持たない様であります。もし悪いことと思つてゐないのなら、その人の生活は幸福かも知れませんが、社會を亂すの甚しいものではありませんまいか。(九月二十一日)

お能拜見

我々の肉體の生長は、睡眠時にも休止しないものであります。然らば、精神の生長も亦、晝夜を分たぬものでなければならぬと思はれます。一日の中に仕事が変わつても、向上の心の弛む時のないのが、本當の生活であります。如何なる場合の行爲にも、一脈の連絡がなければなりません。精神を肥すのに油斷があるのは、實に恥づべきことであります。「我、夢に周公を見ず」といはれた聖人の嘆は及びもつかぬことでありませうが、夢の中だからといって、不倫の行爲などがあつたら、人知れず赤面する次第でありませう。又煙草一服の間の笑の前に、すっかり自分の人格を汚してしまふ様なことがあつたら、これは一種の墮落であります。自分を喜ばし樂しましめるものが、又自分の修養に資するものであつた時、人は歩一步向上します。公的生活と私的生活との間に連絡がないと、晝間他にい

けないといつて禁じたことを、夜自分がするかも知れません。「ヂキル博士とハイド」とはこれをいつたものではないでせうか。然るに上品な生活で氣づまりだつたから、その慰安として下品な眞似がしたいと、希望してゐる人が随分多いのは情ないことであります。人は馬車馬の様に働けるものではありません。慰安は誰にも如何なる場合にも、必要であります。唯、何を以て慰安とするか、問題なのであります。殖民地の先驅として、娘子軍を必要とするなどいふのは、聞いただけでも顔が赤らみます。それから、レビューとか漫談とか、其他ナンセンスを喜ぶのも、一種の精神生活の休止状態ではないでせうか。この頃はスポーツ獎勵が、復び日本の武道を思出させる傾向となつて來ました、團體的のものが個人的になれば、どうしても形よりは精神に立かへらなければならぬ相撲などの様に、四十八手とかいつて一の形式を主にするものでも、一人々々の腹がすわつてゐなければ出來ません。そして又見る方でも、形を通してその精神を窺ひ得るから面白いのであります。かういふ風に、すべての點で日本精神を鼓吹せ

んとする場合、私は高尚な趣味として、能樂を推さうとするのであります。今日の女性には、朗らかに勇敢に、積極的に發表的に、教へられてゐます。然しこれは一寸注意を怠ると、往々思はざる結果を生むことがある様です。衷心やましくない場合に、行爲は朗らかなる筈でありませう。正義を守る爲にこそ、勇敢であれと願ふのでありませう。然るにその爲に、十のものを十二に見せたり、女が女らしさといふ美德を失ふことゝなつては、何にもなりません。大體今日の危機は、半以上こゝから起つたのではないでせうか。陰陽の理は、今に至つても變る筈はありません。晝に對する夜、太陽に對する月、女性は如何なる場合にも柔和さと落着とを失つてはなりません。ともすれば、ゐのしゝ式にはやりたがる男性に對し、その性急短氣を抑へ、平靜を保たせたものは女性でありました。一寸待つてと袖を引く人がなければ、奔馬の如き男性は、何をしでかすか解りませぬ。然るに今日は、及ばざらんを恐れて、その男性と歩調を揃へて行かうといふのです。銀座を濶歩してゐる女性は、その代表者であります。ダンス賛成、ゴル

フオーライ。然して自ら好伴侶と稱してゐます。さういふ風潮ですから、終には詐欺には手引となり、人殺には同類となり、新聞種を製造する様なことになります。「犯罪の裏に女性あり」といふ言葉は、決して女性の直接行動を考へたのではないのです。今日の様に表面的に女性が活動するのは、實に不思議な現象であります。我國に於ての最高女性は、平和の中にこの國土を經營せられました。爾後三千年の歴史は、主に男性の活舞臺でありましたけれど、そのところゝに點綴せる女性的色彩を、我々は忘れることが出来ません。私は何卒して、昔ながらの貞淑な女性を作りあげて、その力によつて、荒みゆく男性を和げ、底止する處なき險惡なる世相を好轉して、社會の平調を保たしめ、延ては、世界の平和に貢獻する處あらしめんと願ふものであります。その爲には、落着いた趣味を持たせることが、目下の急務であらうと思ひます。私は特に女性に對し、能樂趣味に涵る様に勧めたいと思ひます。

能樂は神事舞から發達して、足利將軍家の眷顧を得、貴族の爲の藝術となり、

その傳統が安土、桃山時代を経て、徳川時代に至つて、完全に將軍大名及其の家來達の専有藝術となつてしまつた爲、徳川時代から明治時代、そして今日に及んでもなほ、一般民衆の對象となり得ない觀があります。徳川時代に、見附側を通りながら、俗語を唄つてゐる人があると、それが武士であらうが、役人は「黙れ」と叱咤したが、謠曲の場合は、町人が謠つてゐても、「黙らつしや」といつたといふことで、その當時の品位を察することが出来ませう。今日では物ずきか老人連の慰みと、思ひ捨てゝゐる様であります。然し、これほど我國の精神を如實に傳へてゐるものは他にないと思ひます。我々は須くこの妙味を味はひたいものであります。能は素朴で些の虚飾を持ちません。寫實でなく一の表象であるところに多分の想像の世界を藏してゐます。そこに深みがあり、落着があり、品位があります。入神の技は見る人に、巧いとか拙いとかを考へさせる餘地を興へないほど、強く迫つてくるのであります。然し見る方からいへば、又十分の心がまへが入ります。邪念を離れ精神を統一して、その空氣の中に融けこむのでな

ければ妙味は解りません。私はそんなに度々觀能の機會をもちませんけれど、嘗てあまり時を隔てないで井筒を二度見たことがあります。最初の時は連の人がお辨當の話をしだしたので、ハツと思つた刹那、幻想が破れてしまひました。次の時は、本當に一心不亂であつたと見えて、涙がとめどもなく流れました。魂を打ち込んだ藝を、魂を打込んで眺めて兩方の氣持が合體した時、「面がくもる」といふ様な一つの奇蹟が現れます。こゝまで来れば一の立派な宗教であります。すべての風俗習慣にはそれ／＼よりどころがあるので、外國ではダンスでもレビエーでも、それ／＼由緒があるのでせうが、全然風俗の違ふ我國に、そのまゝ移して来て、猫も杓子も遅れんことを恐れてゐるといふのは、考へても恐ろしいことです。思想にも運動にも、傳統を尊ばうといふ時に、趣味ばかりが、そつくり變化するといふのは、正しくないことであります。目に鼻に、耳に口に、刺激のあるものばかり追ひまはしてゐると、氣せはしく目ばたきしたり、貧乏ゆすりしたり、果は昔なかつた舞踏病など、いふ奇現象を呈する病氣が起るので。か

ういふ時には、強てども浮世離れのしたものを趣味とするのがいゝのです。魚つりの方が、疳癩玉を破裂させる遊よりは、精神上に効果があります。相撲とりはふとりますが、拳闘家はやせてゐる様です。これは人體に大切な血液を浪費する結果でありませう。土佐名物の闘犬もこの頃は嵌口して、流血の慘を見せない様になりました。子供などにも映畫の様な刹那的なもの、レビューの様な刺激的なものなどを、先に見せてしまふと、穩健なものを味ふ心持が起りません。ふざけたことばかりしてゐますと、眞面目なことが馬鹿らしくなります。文字には三體ある様ですが、本當に文字の妙を味ふ爲には、先、眞から始めるのであります。能は眞であり、歌舞伎は行若くは草であります。レビューとなつてはもう脱線です。まどろこしいとか古くさいとかいはないで、先、堅いもの眞面目なもの、おだやかなものに親しませる様にして、いつの間にか、優雅な、奥ゆかしい心を養ひ、根強くそれが培はれた時、漸次軟化したものに移り、然る後新しいものを見れば、本當の物の見方聽方が解つて、温故知新の心持も出来るのであります。

能そのもの、本來の性質からいへば、もとく大向の喝采を博するのを目的としてゐるのではなく、シテはワキに向つて、或は談り或は舞つてゐるのを、ワキは又身動き一つしないで見物してゐます。それを又見所の人々が、小庭を距て、行儀よく拜見してゐるといふものですから、見所の人にはゐてもゐなくてもいゝ様なものではあります。實在の人の職業である以上、十分の保護獎勵がなかつたならば、立ゆくものではありません。この世界獨特の神技が、生活の不安の爲、廢絶の悲運を迎へる様であつては、單に同好者の問題ではなく、實に我國としての一大事でありませう。それかといつて、大衆向に崩してしまつて、精神のない死骸になつては、保存の甲斐もありません。一般がこゝに着眼して、その美點を知り、その權威を認め、自ら進んで觀能の機を作ることが、自分の爲にも、斯道の爲にも、大切であります。近頃學生觀能が相當成績を擧げてゐる様に聞きますのは、實に嬉しいことでもあります。「上の好む處下これより甚し」といふ語がいゝ意味で復活される様に、すべてが眞似でもいゝのですから、上品さを養ふ様にな

りたいものであります。能の時感ずることは、劇場などよりも夫婦連が多い様です。それから老人を勞りながら見てをられるのは、誠に嬉しく思はれます。それから全體の行儀も外よりはいい様です。錢湯にゆけば、皆裸ですから、自分の裸姿が變に思はれないのです。能の席では、他が行儀がいいのですから、不作法が一層目立ちます。すべてが静寂な中に、面をつけ衣裳をつけて、神韻縹渺たる中に生きて動いてゐる舞臺面は、裸をどりのそれと何といふ相違でせう。

狂言といふものは、又中々眞理を教へるものであります。然るに聞くところによりますと、今日では専門にやつてゐては、とても引あはないので、或特別の人以外は、皆他に職を持つてゐる相です。それから三百種を通して、知つてゐるといふ人は中々少ないとのことで、或狂言師はせめて女性にでも残しておきたい。適當な機會に教へたいからといはれ、門外不出といはれる裝束までも、その爲には借して下さるのです。これは誠にいたましい事實と思ひます。一種の藝術として、もつと敬意を拂ひ、もつと後進を養成して戴く様、後援したいものだと思ひ

ます。序ですが、觀能の時には、適當な食事の時間がないため、狂言の最中に立つ様なことになり、誰も又それを怪まない様ですが、これは改良して戴きたい事實であります。それから、劇場に比しては當然のことかとも思ひますけれど、觀覽券がもつと廉價であつたら、羽化登仙の時を多く得られることですし、又多數の人がこれに親しむ好機を興へられるものと思ひます。なほ今日謠曲が相當流行してゐることは、誠に嬉しい事實であります。せめて觀能の時を得ることが出来なくとも、文を玩味し節を謠ふといふことだけでも、全國女學生間に流行させたものであります。(九月廿二日)

曾我廼家五郎氏と談る

徳川時代の演劇は、大衆教育機關であつた様であります。庶民階級とか婦女子とかが、観客の大多數を占めてゐたにしても、多少儒教の影響を受けてゐたと思はれる武士の階級でも、相當見物したものがあつたでせうし、忠孝信義、義理と人情との葛藤といふ風なものは、大なる魅力を以て、理屈なしに、一般人心に浸みこんだことと思はれます。その結果がいかに當時の風俗に影響したかは驚くべきものがあります。全くの處、人情の機微は、四角い文字を通しては、解りにくいものでありませうから、如何なる時代にも、その時々々の民衆指導は、或は形を以て或は言葉を以て、成されることでありませう。此頃浪花節を、社會教化の道具に使はうとした大臣があつて、人はこれを俗悪と謗つた様であります。然し高尚な人には不用であつても、一般民衆が十分の興味を持ち、しかも大なる感

動を興へらるゝものとすれば、それは決して却くべきものでないのみでなく、進んで大に利用すべきものと考へられます。私は今日の演劇の藝術的價値を認めるものであります。所謂歌舞伎とか、左翼劇場とかいふ様なものは、種々の事情で一般的であり得ないのでありますから、我々民衆として、教へられる點の多いことで、曾我廼家劇を擧ぐることを躊躇しません。そして又、それは世間周知の事實であつて、今更私の喋々を要さないものでありませう。

昨日新橋演技場樂屋で、同氏の貴重の時間を割いてもらつて、聞き得た處は大略左の様なことでありました。五郎氏が二十三歳の若者の時から今日まで、三十年に渡つて、絶えず努力してゐる點は、一つにはこの行つまつた世の中に、笑を贈物にしようといふこと、一つには不合理な世相を暴露させて、観客の不平不満を緩和しようといふことであるといふのでした。

喜劇は元來我國にはなかつたもので、大阪仁和加といふものは、一見笑はせる

様であるが、實は當路者に對し、又權力あるものに對しての、不平不滿の爆發であつたさうです。それを換骨奪胎して、大衆教育機關として、多大の効果を收められることは感謝の至であります。願くは今後愈々奮闘して、益々險惡に赴かんとする世相を緩和し、清く明く直き、日本人本來の面目に歸らしめる様、努力せられんことを祈ります。

私はこの時同氏の言葉によつて、「親は子の肉體を生むと共にその精神を生む」といふ自分の所信を裏書することの出來たのを非常に嬉しく思ひました。同氏の家はお寺で、祖母は先生、父は辯護士であつたといふのです。五郎氏自身の、すべてを擲つて、現在の仕事に精進するに至つた、熱烈な社會愛、悲壯な意志の力は、十分認める次第であります。お寺の教育が、そして辯護士の職業が、今日の五郎氏を作りあげる大きな要素になつたといふことは、いふ迄もないことで、三十年の舞臺生活は、幾千幾萬の人に、確かに或精神を注ぎ込んだことでありま

せう。人の親たらんものは、深くこゝに思を致し、社會向上の爲、よりよき我を作ること心がかけたいものであります。(九月二十四日)

不景氣風

いつでしたか流感が大變はやつたことがありました。あちらでも死んだこちらでも死んだといふ様なことをきいたのでした。然しそれは大抵の場合、一の近因になつたので、他に遠因のあつたことは争へません。つまり不養生したとか、病氣に對する手當が悪かつたとか、さういふ缺點のあつた處を、この病が襲つたのだといふのが事實であります。今流行してゐる不景氣風といふのも、亦さやうの徑路を経て行くものではありません。その不景氣を食物にして、生活してゐる人もありますが、さういふ偉大な人種は特別にしておいて、少くとも我々はこの病氣にかゝらぬ様、敬遠してゐたいもので、それには不斷からの心掛が大切であります。今更申す迄ありませんが、収入を増加させたいといふ希望は、誰にもあるわけでありませうけれども、それにも制限があるもので、それ〴〵の生

活で、勤勞に對する報酬は、規定されてゐます。仕事は少く収入は多くといふのは、普通にはないことですし、又そんな人があつたとすれば、その人は何か特別心に負擔をもたされてゐるだらうと思はれます。勤勉と誠實と熟練とによつて、一つの仕事が漸次効果を上ぐる様になれば、自分としても興味がまして來ませうし、副貳的のものとして、収入も増加して行くのであります。一方支出については、十分研究の結果、最小限度になる様に節約し得れば、嬉しい譯で、剩餘金も從つて出るのであります。高くても廉くても入るものは入るといふことは、一應の理であるけれど、他から見ると、大穴のあいてゐることが、往々あるものであります。天候によりて起る凶作、事故によつて起る物價の變動、個人的にいへば不時の病氣、かういふ事に備へることが、治にゐて亂を忘れずの意にも叶ひ、經濟上緊要事であります。むだのある生活は、どんな場合にも罪惡であります。己に薄くしなければ、人に厚くは出來ません。しかも生活の膨脹は、(あへて向上とはいひません)一寸した油斷からも起るものであります。

私は先、農村について考へて見たいと思ひます。農村疲弊といふことは、農村のみでなく、我日本國全體にとつての大損失であります。私ども第三者が、又ぎゝ位の話をもとにして、とやかく意見がましいことをいふのは、失禮にも當り、役にも立たないものとは存じますけれど、たゞそれほどに心配してゐるといふことを、當事者にも又關係役場の方にも、同時に又多數のお母様にも、知つて戴きましたらば、又各方面からいゝ御意見が出ようかと思ふからであります。

先、第一に私が痛感致しますのは、勤勉そのものといはれてゐた農家に、恐るべき敗類の風が、吹いてゐることです。つまり、自分の職業の意義と尊嚴とを忘れて、自暴自棄になつてゐるのではないかと思ふのであります。その大きな原因は、今までと違つて、現金が必要になつて來たこと、その金が勞働に比して、甚しく少額しか得られないといふことである様であります。處で金銭支出の多額なるものは、税と子女遊學費と人工肥料の代といふのですが、税につい

ては今觸れずに置ませう。子女遊學については、私はその不必要を十分唱へたのでありますから、今は人工肥料について、記したいと存じます。二三十年前迄は、田畑の肥料として、下ごえと堆肥とが、唯一のものとして使はれたのであります。農家では、町の方にそれ／＼の得意を持つて、人糞汲取の爲荷車を曳いて出で、桶を滿して歸つて來ます。その代として、盆暮には幾多の野菜物が、その得意先の台所に運ばれます。然るに今日は、汲取料を出して取つてもらはねばならぬことになつてしまひました。同時に堆肥の方も、殆ど忘れられてゐる傾があります。どうして半世紀たゝない位の中に、さういふ事實轉倒が起つたか、といひますと、今日そんなものゝ必要を認めないからだ、といひます。少額の費用で手に入れることの出来る下ごえやねかしごやしを使へば、その中には、すべての要素が適當に雜つてゐて、萬遍なしに收穫があるが、人工肥料を使つた田は、譬へば燐酸が足りないといつて、それを入れた田は、その年は非常によく出來ますが、翌年そのまゝにして置くと、すつかり不作になる。これは藥が副作用を起

した譯で、又他の肥料を入れねばならない。つまり病的状態になつてゐるから、その時に考へて、應急手當をしないと、却つて悪い結果を來すものであるといふことであります。今日人體の病氣でさへも、自然療法の方が、根本的で有効である、といはれてゐるのに、土地迄をわざ／＼病的にするのは、どういふ譯なのでせうか。田がもし訴へることが出來たら、何といふでせう。この病的の田畑は、その道の知識ある人が、一々研究し指導しなければいけないのに、普通の農家では大抵見まねきまねでやること故、僥倖にも、非常にいゝ場合もあるけれど、悪い時には、全然收穫がないといふのです。それかといつて、農會に出かけて、指導を受けるといふことになれば、時間にむだが出來、父祖以來の經驗が皆だめになり、その研究に興味を持つと、勞働の方がお留守になりませう。お酒を飲んだり、話をしたりして、一日過したことを考へては、翌日眞黒くなつて田に入るのがいやになるのも、最であります。かうして今まで、自分達の天職と信じ、喜んで従事してゐた立派な勞働は、だん／＼農家の人々からあきらめます。しかも

人工肥料といふものは、非常に高價なものであるから、その現金を作りあげる爲には、養蠶でもしなければならず、繭を賣つたお金のすべてで肥料を買ひ、算盤をはじいて見ると、却つて損になつてゐるので、馬鹿馬鹿しいといふ事になり、なまける様になります。甚しいのは、その仕事をやめて、都會にあこがれてしまふのであります。都會の附近では、懷手をして土地を借した方が、よほど得だといふ事で、農業が貸地業に轉向します。下ごえを使ひ、又養蠶の手間で草を刈りねかしごやしにすれば、差引損益なく、桑の代りに他のものを植ゑただけ儲るといふ事です。汚いものを扱ふまい、骨惜みをしようと思へるから、直接には肥料の爲に多くの金を出さねばならず、間接には遊惰に耽る様になり、勞働しない處をと探した擧句、都會に出て、ルンペンの連に落ちるのであります。金がなくても、相當生活の出來てゐたものを、纏つたものがほしいと思ふことになると、娘が女工に出されたり、いゝ方だと屋敷奉公させられたり、色々な無理をして、その現金を握ります。さうして考へて見た時、農家ほど割の悪い仕事は

ないと、愛憎をつかして、眞面目に働く気がなくなりす。お酒でも飲まうといふことになり、つまらぬ女と騒いだりしてゐれば、やう／＼出来た現金などは、一時に飛んでしまひます。遊ぶとなると着物もかまつて見たくなくなります。これで農家の榮えよう譯がありません。一方都會の風に當つた娘達は、歸つても農業の手傳は出来ず、労働と報酬の不釣合を適切に考へて、勤勉の美風が失はれます。かくして餘裕ある生活が影をひそめ、立派な農業が、つまらない仕事として捨てられます。誠に何といふ情ないことでせう。この場合、手がかゝるとか汚いとかいふ理由のもとに、下ごえを使はぬといふことを、もう一度思ひ起して戴きたいものであります。

或人はいひました。「自分達の方では、下ごえも使つてゐるけれど、それでも人工肥料を買はねばならないのだ。一つの土地は一年間に二度三度の仕事をさせられてゐる。従つてとても尋常一様のことでは收穫のある筈がない」と。かういふ話を聞いた時、私は過激の労働に疲れきつた人の姿を幻にゑがきました。それは

人としても田畑としても、同じくいたましい事實であります。あまりに眼先の慾ばかり考へて、酷使するといふことは、恥づべきことであり、同時に永遠に對する罪惡であります。それからこの頃の人糞に、割合消毒薬や何かと、肥料として不純な有害なものが、這入つてゐる場合があるといふこと、これは誠に困つたことであります。然し、下ごえが効果があつて、經濟的にも出費が少いといふ事實が、果して誤のないものならば、それを基礎として、研究を進めることも出来るのではありますまいか。それから運搬に就ても考へて、便所構造を改良し、東京あたりでは、それこそこの市電收入減の世の中に、地下鐵を増さうといふ様なことのかはりに、地下に輸尿管を作るといふのも、亦一法であります。

この頃旅行して一番目につくことは、田畑にやさしい處女の姿を見ないことでもあります。田植とか草取とかにあのうるはしい色彩が點綴されるのは、農村風景中の第一であると考へられてゐました。それが跡を絶つたことについて、私は不思議な話をききました。その一つには處女自身がこれを賤業として忌避するとい

ふこと。今一つは家人が我娘の幸福を希望する爲、嫁入支度として學校に通はせるといふ説であります。我娘は農家にやりたくない。配偶者は十圓でも二十圓でも月給をとる人がいゝ。この一種の虚榮は、最愛の娘を一生涯泣かせる原因となるのでせう。それから、宇治あたりの茶所でも、茶摘少女のうるはしい有様は見られなくなつて、朝鮮人を使用してゐる所もあるとのことです。その人達は、分量を多く摘まうとする爲、莖も何もかまはず採るらしいのですが、一々葉を見わけて、これがいゝとかもうだめだとか、親切な氣持で摘むのでなければ、いゝお茶は出来ません。もしどこでもこんなことをやつてゐるならば、數年ならずして輸出茶の上に大影響があることせう。

お米の價と景氣との關係は、實に微妙なものであります。然し安いのがいゝか高いのがいゝかといふ様なことは、商人の手に任せておいて、俺まじ撓まず、汗を流して生産方面のことに専念したなら、自然の恩恵によつて、一粒の麥が三百

粒餘にもならうといふほどのものですから、努力は必、立派な結果となつて表れませう。一段七俵のものが八俵にも八俵半にもなるならば、値が廉くとも困りはしませんでせう。米が標準になるのですから、廉くなれば諸物價も下り、職人手間も廉くなり、反物も日用品も價が低下し、誰もかれもが暮しよく、安定した生活になる譯でありますまいか。今年には生産過剰だといつて、田を減し出来高を減さうとする。懐手をしながら、米の價の出ることばかり考へてゐれば、酒も煙草も高くなり、村落にまでカフェーが出来、結局出費がふえるばかりであります。それから、今日農村救済の爲とて、低利資金を貸出す様ですが、この資金は多くの場合、遊人を作る基となります。その金を生活費にしてしまふのでは、何の役にも立ちません。組長などは、金の世話をすると稱して、田の仕事をしません。田畑のものは、日々活動してゐます。人が世話しなかつたなら、蔓がのびたり草がはえたりします。手もやらす草とりもしなければ、日一日と荒野になつてしまひます。

大分前ですが、或商店がジャバから砂糖を買込む時、荷が着くと内地の在庫品が廉くなるといつて、その船を沈めた爲、品が拂底になつて、一舉に數萬の富を致したといふことをきました。それから、外の製造業でも作らない譯にはゆかず。さりとて、過剰になつては困るといふやうな話もききます。昔の人に聞かせたら、眼がつぶれると恐れる様なことを、今の人は平氣でやつてゐます。そして勿體ないとも、その品に對して罪を犯してゐると思はないのでせうか。お米などでも、在庫品焼却などいふ文字を、新聞で見ますと、本當にゾツとします。三千年の間、秋のみのりが、どれだけ全國民に關心をもたれたこととせう。それは、國の爲に民の爲に、豊年を希望するからであります。先程見た新聞に「六千五百萬石の大豊作と聞いて、農相は飯も喉を通らぬといふ」といふ記事が出てゐました。一粒のお米も、辛苦の結晶だといふことは、昔ながらの眞理でありませう。もしさうでなくなつて、出來すぎでは困るといつて、お米でも何でも、どんく捨てるのが、經濟の法則に叶ふといふことなら、それは一時的の誤れる現象

で、決して國家百年の計ではありますまい。それ位のこととは、誰だつて考へることで。然るに、それでもかういふやり方をするといふのは、畢竟私腹を肥す目的のものが、介在するからであります。そして一方に生活苦の爲自殺するものが絶えないといふのは、昭代の恨事であります。

區劃整理は、能率増進の爲といふことですが、田畑の間の畔道が減つて、往來が繁くなると、田の中の仕事に餘計臆劫になり、襦袢一枚では恥しかったり、本氣になれません。今日働いてゐる人達が、悪いことでもしてゐる様に、手拭をかぶつてゐるのを見ても解りませう。あまり便利になりすぎて、西瓜畑などは、白晝でも盗まれるのが多い相です。夜晝番をつけて置いては收支がつぐのはず、もつたををやめたなどいふ、恐ろしい話も聞きました。それから村落をつなぐ自動車といふものが、又随分厄介なものであります。絶えず通る道は、兩側の畑が埃をかぶつて、野菜の出來が悪い。骨を折つて收穫がなくては困るから、土地

を遊ばしておくといふ話、その上今まで徒歩してゐたものが、皆何がしかの足代を拂ふ。こゝに二重の損害があります。便利にさへすればいゝといふのは、何を目標として考へることであらうか。全體乗合自動車の出願をすれば、公衆の爲の仕事だといふわけで、場所によつては國家の補助がある様です。借金して十萬圓かけ、その内二三割は皆の懐に入れた上、なほ相當の儲を得ることが出来ると思はれば、こんなぼろい話は他にないかも知れません。それ故出願利權の奪合もはじまるのです。

次にこれは町でも村でもさうですが、道路が何の統一もなしに、勝手に掘かへされます。ならしては掘り、又ならしては掘りしてゐるのです。その道路工事は坪何十圓のもあるさうです。東京の場末では、この頃花崗石を砕いて敷いてゐますが、大きな石材をどんく砕く。その機械は又、日本では出来ないものです。それを路傍に積上げて置けば、子供たちが面白半分に蹴散します。泥溝に落ちれば拾ふ人もありません。その爲泥溝はつまりますし、一方材料はずんく減つて

ゆきます。然し他人のものだと思つて、かまふ人もありません。さうして折角莫大な金をかけて、作りあげた道も、半年したら、自動車にはされて、又やりなほしをしなければならぬ様な有様、處で今の人皆自動車に乗らなければならぬ程、多忙を極めてゐるかといへば、そんなことはない筈です。それからよしやその必要があるとしても、或特別の道だけを通ることにはしたらいゝのです。そして外の道は、お互が自分達の道路として掃き清め、銘々の家の炭殻でも敷くことにしたら、どんなものでせうか。すべて人工的のことには無理が伴ひます、出来るだけ自然のままにして、それこそ徒跣で歩く處は、石ころをのけ、下駄で歩く處は、水たまりをよくならす。それで通行に差つかへはありません。各自の一寸した注意によつて、税金を高く拂はないでも、いゝ様になる筈だと思ひます。

この間東京市自治記念祝賀會に出席して、區當局者から財政についての話を承りました。市の歳入は自治市當時(明治三十一年)に比し十六倍強の増加、歳出は同じく五十六倍、市債は一人あたり百三十二圓、利子は一ヶ月百五十二圓、赤

字は七年度に於て約二千五百八十萬圓といふ事、その支出費目中、市債費第一、電氣事業經濟第二、土木費第三、教育費は第四位といふことが、一番耳にとまりました。今日あまり分業になりすぎて、銘々が自分の専門のことしか考へないのではありませんが、この土木費が第三位、教育費が四番目といふことは、随分驚くべきことではないでせうか。然も教育行政でも、東京あたりは、府と市と區とそれ／＼が、各自所信を行ふといふ風で、統一がついてゐませんから、一つの調査でも、三方でやつてゐるといふこともあり、人件費が非常の多額に上るのです。それでさへも第四位に位するのですから、第一位第二位のものゝ費用は實に莫大なものであります。それ等の負擔が、すべての人の頭にかゝつて、税又税といふ現象を來すのでありませう。

失業救済は、一の重要事業であります。同時に大に考慮を要すべきことであります。その爲に、已を得ず土木を起し、道普請をはじめるといふのは、あまりに

能率を無視することゝ思はれます。それから歸農といふことも、一時唱へられた様ですが、おとなしく農村に留まつてゐる人さへ、食べられないといふ時に、なまけくせのついた人に歸られても、邪魔になるばかりだといふことです。多少文字があるからといつて、小學校の先生にするといふ風なことが、もしあつたしたら、これほど危険なことはありません。その人は勤勉でないばかりでなく、少くとも思想が穩健でない筈です。それから大工職が、國に歸つてまでその仕事をしようと考えると、結局又東京に出て來る様になる。捕へられて逃げまはり、追つめられた擧句、あやまつて、禁裡を犯し奉つたなどいふ、世にも恐ろしいことは、空前であり、同時に絶後であつてほしいと思ひます。つまり多數に對して大量的に仕事を與へるといふことは、不自然なことになり、又不可能のことでありますから、個人個人が他の世話にならずに、自分としての最善を盡すことを第一要件としなければなりません。その一人一人の相談には、村役場などでも、もつと親切に指導してほしいものと存じます。

世の中に仲買業と稱するものがあります。生産者から消費者の手に渡る間に、無数の仲買がある爲、物の價は轉がつた雪達磨式に倍加して行くといふことです。それは職業としても實に不生産的な話ですし、同時に消費者にとつて非常に迷惑なことであります。それでこの頃は、「生産者より消費者へ」といふスロガンの下に、購買組合や何か、到るところで行はれ、公設市場もその一方法の様に聞いてゐます。然し少くとも公設市場の成績は馨しくない様です。「品實があちてしかも價があまりに廉くはない」といふ評は、あながち小賣商人の宣傳ばかりでもない様です。購買組合の方でも、有閑夫人だの役人の古手だのが、理論的根據にのみよつて、實際の品質に關する知識を缺く爲、生産者が漸次狡猾になつて、いゝ加減なものを賣つけます。仲買人はもと／＼それを商賣にする位ですから、品物に對して眼はきいてゐます。悪いものを高價でかゝ様な馬鹿なことはしません。それに幾何かの利をつけて賣るにしたところで、消費者にとつては、

却つて安心して購入が出来る譯です。私はこの意味から仲買存置に賛成します。さうしておいて、消費者就中主婦は、日常品の質の良否を鑑別することに注意すれば、必要以上の仲買は、影をひそめませうし、正しい仲買は、他を利し然して己を利することになり、失業者をその爲に作り出すことがなくなります。この頃村落に於て、役場指定の市場の爲、今までの商人が非常に迷惑してゐるといふ事實をきゝ。氣の毒に思ふ次第であります。

要するに、不景氣挽回策として、政治家は大局に目をつけて、不自然な小細工を弄さない様にしてほしいと思ひますし、個人は勤勉誠實で、自分の生活には自分で責任を持つ様にし、又互に助けあひ譲りあつて、共倒れにならない様にする。ことが、失業を防止し諸経費を節減する所以である事を考へたいのであります。我國の存立の爲に、又隆盛の爲に。(十月三日)

農村の處女に與ふ

私はあなた方の未來に、大に望を囑するものであります。あなた方の決心一つで、我國は救はれると信じます。世の中にどんなに輕薄の風が吹かうとも、どこまでも、農業の意義と尊嚴とを知つて、その仕事に専心になつて下さるなら、非常時も恐るゝには足りません。私は國を出て三十年も経ちますけれど、今でも田植時になると、あの麗しい早少女の姿を思ひ出します。丁度その時分になると、田に出て働いてゐるものは、すべてうら若い女性でした。紺の襦袢にらせ板の帶と襷と腰紐との赤い色どり、あねさんかぶりの白手拭は、又その色彩を一入華やかにするものでありました。共同で一所づゝ植ゑて行く田、數本の早苗を手に持つて、歌の節面白く、後じさりしながら、迅速に正確に、本當に物指で計つた様に、寸法正しく出來上らせて行く、その仕事の跡を見ては、我ながら會心の笑を

もらすのは、裁縫品の出來上つた以上の嬉しさ、勝負事に一目二目と數へて勝つた時の嬉しさ、以上であると聞きました。純眞の少女の祈に似た眞劍さでやる、この營によつてこそ、美味しい米も出來上り、神様にお供するにも恥しくないものに、なるのでありませう。然しその光景が、詩であり畫であると考へる時、同時に、泥田に跣で這入つてゐること、蛭に血を吸はれても、拂ふことも出來ないこと、肥料の汚なさにも馴れなければならぬこと等を忘れることは出來ません。都の女なら、化粧三昧に日を暮す位の年頃を、かうして朝早くから暗くなる迄、働き通すそのゆかしさ。それによつて、我々は生をつゞけて行かれるのであります。處々で風俗は變りませうけれども、とにかくこの大切な仕事を、あなた方が喜んでして下さつたら、いかに有難い事でありませう。不幸にしてこの頃、私共の目に觸れる田には、ぼろの着物舊い半被、そして腰の曲つた老人、さういふものしか見られられません。子等は皆戰の場にと仰せ給りし御製の、それと同じ非常時であるかも知れませんが、然しそれでは、あなた方は何をしてゐて下さ

ることとせう。老いたる父は米つき鶏の世話、野菜物をちぎる用事、母は台所を引うけ、若者は田をすきかへすこと、牛を追ふこと等、それ／＼分業になつてゐて、最大切なる田植が美しきさをとめの手によつて、なされたといふことには、それこそ神代ながらの傳統があること、信じます。草を除くこと虫をとること、一方ならぬ苦勞の末に、秋の收穫があつた時、それが今の相場でどれだけだなど、私は考へたくはありません。又あなた方としても、金錢ではあがなへぬ喜を、そこに見出されることではありませんまいか。

申すまでもありませんが、農業は一年を一單位として、五日の風十日の雨、あらゆる自然の恩恵のもとに、朝には星を戴いて出で、夕べには月を踏んで歸るといふ、その絶えざる努力の結果が、一段に米七俵餘といふ大なる生産となつて、あらはれるのであります。その他の穀類野菜、すべてあなた方が土を愛する、その報として、恵まれるものであります。そして我々のすべてが、それによつて毎日の生命をつなぎ得るのでありますから、昔の朝廷では、大御寶としてあなた方

の祖先を敬はれたのであります。

然し近來概して、自然に對する感謝の念が薄くなり、勞苦を忘れて業を勵む心持が失せた様に思はれます。もしさうすれば、目下の農村疲弊の聲は、いかなる近因があつたにしても、畢竟自ら招いた禍と申さねばなりません。科學的のみに物を解釋しようとする人は、自然の恩恵を考へず、肥料さへ入れ、ばいと思つて、試験管の中に薬品を入れてゐる様な氣持で、すべて自分達の手で物が出来ると思ふのです。さういふ農學士連は、演説は旨いのですが、實際には田をたがやす事一つ出来ません。それから又、實際の仕事に興味を持たない人は、先覺者ぶつて、仲間の世話をしたり、組長になつて見たり、家庭を外にしてゐる中、田地も減つてしまひます。つまり、要領がいゝといふ様な人は、農の仕事が出来ず、人の世話をしてゐるつもりで、反つて世話になることになりませう。

今は農村疲弊の頂點だといひます。然し日常生活のものをすべて、お金で買はなければならぬ私どもの生活は、収入の殆ど全部をそれに使はねばなりません。

ん。餘裕のあり相な様子をして、中に火の車をまはさねばならないほど、つらい事が、世の中にありませうか。それに比べて、米味噌醤油そして野菜といふものが、豊富であるところの、あなた方の生活は、本當に私どもの羨望の種であります。然るに私どもは、又しても農村疲弊の聲を聞きます。努力して作りあげた繭を賣つて、買つた肥料、その肥料をつかつて作り上げた田のものは、肥料の代にも足らない。とても税を出す餘裕はないといふお話と、遊學の子女に現金を送らねばならぬ。その現金は、米の價の下つてゐる今日、非常に多くの俵を犠牲にしなければならぬ、どの家でも惱の種だといふ話を聞きます。金錢の價値を知り過ぎてゐる私にとつて、それは本當に、お氣の毒に思はれることなのです。

然し、今のあなた方の生活に、少しもむだがないといひきり得るでせうか。今日の農家には、屹度自轉車があります。これは山でも坂でもかまはず歩くといふ良風を、捨てた證據です。それだけ時間の經濟になると、いはれるかも知れませ

んが、恐らくそれは、口實に過ぎないであります。それから必ず護謨靴があります。これは靴といふものを厭ふ様になつた立派な證據であります。この頃の畔道の、石ころの多いことはどうでせう。昔の様に跣で歩けば、石があつた時すぐ取除きます。辻々のお地藏様にあげます。それは一種の信仰であり、又道徳的行爲であり、然もどれだけの暇のかゝることもありません。田に水を入れるといふ大事な仕事も、面倒がりながら、自轉車に乗つて行つてやるものですから、序に見まはるといふこともなく、稻の下に青虫がついたのも氣がつかないことになります。下駄や靴下では、泥田に足をふみ入れられません。着物が汚れては、洗張にお金がかゝるといふことになります。夜なべに草履や草鞋を作ることをしないで、下駄を買つてはくといふことになれば、二重の損失であります。もし農業の勞働を、金錢につもつて考へるならば、それは實に不均衡なものであります。昔は稻こぎ代が一把四厘か五厘、一日中に三十から早い人で五十位しか出来なかつたのであります。今でもあまり變はありますまい。此頃リヤカーに野菜をのせ

て問屋とみやに行くと、一杯はいたつた八十錢。カクテル一杯が三十錢で、それは茄子なすの二百の價ねだと考へて見たり、妹いもうとが奉公ほうこうして幾圓いくえんもらへる。それを自分じぶんの仕事しごとと比べくらて見るといふ風に、儲まうけといふことを主にすると實に馬鹿ばか々々しくもなりませう。衣食住いしょくじゅうは奢おごる様になり、仕事はなまける様になり、何とかなるかと考へる間に、すべてが日一日と悪わるくなつて行きます。それより、何とかしようと思つて戴いたきたいものです。物を大切たいせつにする。勿體もつたいないと考へること。いゝ加減かげんの事をしては、三寶さんぼう様の罰ばちがあたる、目がつぶれる、翌年よくねんの不作ふさになるといふ様なことは、今のあなた方には、一の笑話せうわにしか過ぎないのでせうか。氏神うぢがみさま様の祭まつりを、一年中の樂たのしみにして、いそぐとそれを待つ氣持きもちにはなれないのでせうか。

農は國の中堅ちゆうけんであります。勤勉きんべんは農の唯一の力であります。田畑いんげんといふ、おのづからなる資本しほんを運用うんようして、天の恵めぐみに感謝かんしゃして働きつゞける毎日まいにちは、如何いかにうるはしい生活せいかつでありませう。村より外ぐわいに樂土らくどがあるかと思つて、あてなしに飛とび出して行かうといふ人達ひとたちを、あなた方がたの力で、引とめる様にして、昔むかしながらのゆ

るぎなき生活せいかつ、罪知つみしらぬのびやかな生活せいかつが出来上つた時、農は國の本もとといふ語が再びふたたび新しい光ひかりを以てかゞやくのでありませう。(十月四日)

婦人と經濟思想

(昭和二年放送)

昭和の新社會に立つ私共婦人は、今後如何なる覺悟をもつて活動すべきかと云ふ事に就き、日頃私の考へて居ります一端を、お話して見たいと思ひます。

顧りみますれば、明治大正の御代に、漸く女子の人格が認められ、理想の生活に憧れて居つた私共は、いよく實踐の時代となつたのであります。御承知の通り、日本も既に普選の行はれる今日となりました。その次に遠からず來るべき問題は何でありませうか？ 言ふを待たず女權問題でありませう。即ち宇宙の進化の理法に従つて、婦人も亦人格の平等と機會均等とを許される事と思ふのであります。さうした大問題を前に、大責任を荷ふべき私共婦人は、此の際大いに自覺を致さなければならぬ點が、澤山あるのではありますまいか。彼の歐洲の大戦は。彼の國の婦人達に何を與へ何を悟らしめたのでありませうか？ 彼等が戦争

前理想として居つた問題は、凡て彼の大戦によつて實際化されたのであります。云ひかへますれば、戦争によつて婦人の眞の力が認められたのであります。又自ら覺醒したのであります。即ち彼の戦争は、彼等をして理想を實現せしむるに、よい動機を與へたのであります。然して現在、益々社會の爲めに、或は平和運動に!! 又は生産興業に従事し、男子の片腕となつて活動しつゝあるのであります。

今や世界の平和を稱へ軍備撤廢を高調する今日、恐らく戦争は地上より取り去られる事でございます。然し乍ら、平和の裏にも競争はまぬがれない事實であります。此れ即ち平和の戦であります。斯うした折から、我が國家の體面を保ち、國家を泰山の安きに置き、國史の光輝を不朽に傳へんと致しますには、そもく私共婦人は如何なる心掛が必要でありませうか？ 最早武力の時代ではありますまい。目下の急務として我々婦人の考ふべきことは、國富の増進であります。即ち經濟上の問題であります。これが國家の進歩發展を計り、人生の幸福を

持ち來す爲めに、最も必要なる問題であらうと思はれるのであります。この平和の競争に打勝て行くには婦人の力を須つ事、大なるものがあります。

此の度の財界の大變動は、古今未曾有の出來事でありました。今まで何不自由のない貴婦人達にも、經濟の何たるかを知らぬ若き人達にも、銀行の取り付け騒ぎに自ら走り、會社破産の憂目に、金殿玉樓より佗住ひに、新しいモラトリアムの言葉は三つ子にまでも記憶されたのであります。此の財界の問題こそ、私共婦人の眞の力を試す時であり、又自覺すべき時であると私は信ずるのであります。いよく我々婦人が豫ねての理想を實現さす、よい動機を與へられたのであります。それ故に私共女性は、此の經濟上の問題に就て、大いに研究を要するのであります。

それでは、經濟とは何でありませうか？ 又婦人が經濟問題について、何故それ程重大視されるのでありませうか。又其の責任を感じるのでありませうか。それをこれからお話してみたいのであります。先づ經濟と申しますと、何となく六

ヶ敷い問題で、婦人とは非常に御縁の遠いものゝやうに考へられますが、決してさうではありませぬ。何故なれば、經濟界の大勢と申しますものは、多く消費によつて決せられるもので、生産とは消費に對する、つまり需要に對する供給に他ならないのであります。それ故に、家庭消費の任務を司る婦人、即ち社會よりみれば、最大なる消費者たる婦人の心掛一つによつて、經濟界の大勢が動く云へるのであります。

經濟と申しますと、又色々あります、金融とか、爲替とか、貿易とか、商工業とか、各事業に亘りまして、頗る廣いのであります、之も亦私共婦人とは全く無關係のやうに思はれますが、之も中々さうではありませぬ。例へば金利の安くなりませぬのも、物價が騰貴し或は下落しますのも、亦貿易が入超を來すのも、尙爲替相場が下落、若しくは騰貴致しますのも、悉く生産と分配によつて起る現象であります。それ故に、是亦婦人の心掛一つによつて左右されると申せるのであります。尙今少し細微に立入つて考へますれば、現在我國にては物價高に苦し

んで居ります。それは何故で御さいますか。

御承知の通り、彼の大正九年頃は物價が現在よりずーつと高うございました。統計によりますと九年の三月より現在は半分程に下落してをります。即ちその好景氣時代には、今日より二倍餘も物價が高かつたのであります。それにも拘らず今日程不景氣に困らなかつたのは、何故でありませうか？ それは物價高に比して財界の景氣がよく、一般に金廻りがよかつたからであります。それ故に高い物價をそして高い商品を、自由に消化し得たからであります。

經濟上の言葉で申しますと、物價高に順應して、収益が多かつたからであります。即ち彼の歐洲戦争のために多くの正貨が流入されて、國內に通貨が非常に潤澤になつた爲であります。然るに彼の大正九年四月の大恐慌以來、今日に至るまで七年間といふものは、不景氣に苦しみ通して居るのであります。然も今はどう底で、本年三月末の統計によりまして、物價高を見ますと、東京は百八十八點、ニューヨークは百四十四點で、ロンドンは百五十四點であります。

此の指數から申しますと、日英米の三ヶ國の中では、ニューヨークが一番物價が安く、ロンドンがその次で、東京が一番高く、實にニューヨークより東京は二割も高いのであります。

現在我々が生活難を感じて居りますのは、不景氣の割合に、まだ物價が下げたらないからであります。それならば、何故物價が高いのでありませうか？ 此れは又中々六ヶ敷い理屈が澤山ありますが、一口に申せば、財界整理未了といふ事になります。此れも一面から申しますれば、消費の節約が十分に行はれて居ないからであります。即ち景氣のよかつた當時の氣分が残つてゐて、消費者の心持に緊張を缺いてゐるからであります。例へば七八年前まで、専門家のみしか使用して居なかつた、彼の寫真機の如きも、郊外散歩になくはならない物の一つとなつたではありませんか!! これまで眞綿で間に合うて居つたものでも、毛糸く〜と毛糸でなければ夜も日も明けぬと云ふ有様、尙是ばかりではありません、實に頭の先から足の先まで、又日常の食品に至るまで、女も男も舶來々々と舶來

品を奨励し、實に小供に與へる人形の様なものまでも、純獨逸製よと喜ばせ、又母親が今度入學試験に合格したら、舶來の腕時計よ、と小さい子供の頭の中にも舶來といふ言葉は上等の代名詞の様にしみ込んでしまつてゐる今日、實に贅澤と云ふか、濫費と云ふか、恐ろしい傾向であります。皆さん、是でどうして物が下落しませうか？

大正八年以來の輸入超過は、實に恐るべき状態を表してゐます。先づ昨年一年の入超は、實に三億三千二百七十五萬六千圓であります。詳しく數字を揚げてお話しする時間がありませんが、或年は六億以上も超過して居ります。是もつまり消費者たる婦人が、經濟思想に乏しいからであると申したいのであります。

以上は經濟の消極的方面であります。今後の婦人に、最も肝要なる事は、生産的精神の涵養であります。從來の婦人は、消費にのみ没頭して居りまして、生産には没交渉でありましたが、今後の婦人は、消極的經濟の他に、更に進んで此の積極的經濟に目覺ねばならないと思ふのであります。例へば如何なる都會の家

庭にも、裏に一坪位の空地のない事はございますまい。さうした場所を利用なさいまして、鶏の二三羽も飼ひ、さうして御飯の残りや野菜の残り、少し面倒みてやれば、趣味の一つともなり、又市中にゐながらにして、新鮮な卵を食膳に供し得るばかりでなく、それがやがて、上海卵子の輸入を輕減する力ともなりませう。又如何なる都會の家庭に於ても、家に相應せる庭園を有して居られませう。そしてその庭には相應の庭樹が用ひられて居ります。殊に東京市の如きは、小高き丘の上より見下します時に、宛ら公園の様であります。私は、只今愛宕山の上から、その有様を見る時に、此の中のせめて百分の一が、桑の木であつたなら、どれ丈養蠶が出来るであらう、などと考へてみるのであります。勿論人間は趣味を没却する事は出来ません。然し乍ら時勢の變遷に應じ、臨機之を轉換さすことは、よい事と思ふのであります。わかり安い例を引て申すれば、彼の戰國時代の如く、武力を以て尊ばれる時代は、劍道馬術を以て趣味としたではありませんか。カナリヤを養ふも、犬を育てゝ愛するも、金魚を見て楽しむも、蠶を育てゝ

たのしみとするのも、別に變つた事はないではありませんか。又庭の四目垣の間に桑の木の数本をあしらひ、玄關の兩側に、丸くコンモリとしたお茶の木を植ゑて、美的情操を満足させ、一方是れより得る僅かな收穫をたのしみ、かくて生産の精神をも養ひ、又子女を斯く教育するは、今後の婦人の最も考ふべき事ではありますまいか。又幾千圓の萬年青や植木を集めて、會を開くも趣味の一つ。幾百圓の鶯を寄すて鳴かすのも結構であります。自分の生産した繭やお茶を比べて見るのも、一興とならない事はありますまい。かういふのが今日の社會に必要な趣味だと、私はしみじみ思ふのであります。

實にかうした趣味の中にも、生産的精神を養ひ、國産獎勵を心掛けて居れば、必ず其の中から、世界を動かす程の經濟家が生れるものと私は信じて疑はないのであります。此處に至つて、大正八年以來毎年二億乃至六億の輸入超過も、三十億の國內公債も、十五億の海外公債も、憂ふるに足らない事と思ふのであります。限りある時間に細い事は省きます。

要するに、昭和の新時代に立つ私共婦人の自覺すべき點は、第一、消費節約、第二、國家的自給自足を旨とし、輸入超過を緩和する事、第三、都鄙貴賤を問はず舉つて生産的精神を養ひ、國産を獎勵し、良品を多額に輸出し、輸出入の均衡を計る事、此の三ヶ條に亘つてそれごとく具體的に、御話をいたしたので御座います。又時を得て申し上げる事に致します。かうしてお話し申上げて居りますと、あれもこれもと、申上たい事があふれてまゐります。只々お互ひに、今度の此問題こそは、御男子ばかりにおまかせ致しませずに、私共婦人が大いに自覺して、國家の爲め、否世界のために活動致さうではありませんか。

以上私の御話し申げ上りました事は、頗る物質主義に墮したやうな觀が御座います。私に決して精神的方面を忘れては居りません。私の所謂經濟的理想を貫きます爲めには、勿論人格あり識見あり能力ある婦人の手に須たなければなりません。それ故に教育、宗教はその根柢をなす事は申すまでもない事でありませぬ。唯世の中の精神的方面を高唱する人々は、經濟を物質的の事なりとして輕視する

傾向があります様に思はれます。此の度財界の變動に際し、經濟も亦人生に最大の關係を有するものなることを思ひ、我國婦人が眞に經濟的にも覺醒すべき好機會である事を信じ、僭越ながら此處に一言御話し申しました次第であります。

綿花亡國 (舊稿)

國際聯盟脱退の後、恐慌時代が來るといふことは、あり得る事でもありません。然し萬一經濟封鎖が本當に行はれた時、どうするかといふ具體案については、識者の説はありませうけれど、我々にはまだ十分な方策が立つてゐないのであります。その内で女性として最留意すべきものは、毛織物と綿花とに關する問題であります。ところで毛織物は大體絹織物で間に合はせるといふ事ですむかも知れませぬが、綿花は一寸代用品がない様であります。近頃軍部の方のお話を承りましたら、經濟封鎖の曉、火藥としての綿花は各個人の夜具類を徵收して、一二年は凌ぎ得るといふことであります。これは結構な事と存じますが、扱實際問題となつて見ますと、各個人が悲壯な愛國心のもとに、争つてその布團を献納したとして、

そのかはりをどうするか考へておかなければ、舉國一致感冒にかゝるといふ奇現象を呈することになりませう。その爲に眞綿といふものがあるではないかとおつしやる方があるならば、私はその方の經濟狀態に敬意を表することに致します。處で私が、此の一見奇矯に見える綿花亡國の文字を掲げましたのは、非常時としての覺悟といふ以外に、もつと重大な意味を持つてゐるのであります。經濟封鎖などが無いとしても、日印關係が如何に圓滿に解決されたとしても、他國から今よりも廉價な綿花を澤山買ひ得るとしても、もし或意味に於て空費せらるゝ綿花が多少でもあるとすれば、それは國家にとつて、非常な損失と考へられるのであります。今日輸入品中、綿花が最高位を占めてゐるといふ事は、綿糸綿布の原料として生産方面に多分に使用せらるゝ點から見ても、非常に結構な事と考へられますが、他の用途を持つ綿花につきては、一考の必要があります。先づ衛生材料として、醫師の手によつて使用されるものは、中々多額に上るのであります。この間或助産婦の方に聞いた處によれば、出産に際して古きれを十分に消毒して、

してつかふといふ方法をとらずに、脱脂綿のみで手當をしようとするれば、随分儉約しても一回に約四圓は消費される。然も普通の場合、助産婦看護婦等は、それを多分に使用することによつて、完全消毒がなりたつたものと考へてゐる様だとの事でありました。一方普通家庭に於て、女性が一ヶ月間に使用する脱脂綿は、驚くべき額に上るのであります。日本九千萬の人々中、半數を女性とし、その半數を成人とすれば、二千二百五十萬を數へることになります。その中半數が一ヶ月約二十錢の脱脂綿を使用するものとすれば、一ヶ月の使用量總計二百二十五萬圓に上ります。近頃又暴騰した様でありますし、又衛生思想の普及に伴ひ、該物使用の傾向は、増加するとも減少することはありますまい。無論これは原料の價ではありませんが、この多額の脱脂綿の消費が、當然必要なもので、何等の代用品もないといふ事でありましては、國家にとつてゆゑしき大事で、經濟上惠まれざる日本が、その爲に産を傾け盡す日は、目睫の間にせまつてゐると申ても過言ではありますまい。出産病氣死亡に際しての脱脂綿の消費については、各専門

家の考究に俟たねばならないと存じますが、一般女性のために、月々少くとも二百萬圓以上の金が特別に支出されるといふ事實は、再考三考の餘地があるものと思はれます。聞くところによれば、外國では全然脱脂綿を要さないのではありますまいが、重にガーゼを使用し、それを洗濯消毒して、何回かに役立てるとの事でありませう。我國に於ては維新後、所謂先覺者が歐米の風を移して、この脱脂綿使用を奨励し、都鄙靡然としてこれに従つたものでありませうが、これは前に述べた如く純然たる歐米風ではなく、多少獨斷的の處があつたものと思はれます。我々女性が不知不識の間に國家的大不經濟を惹起してゐるといふことは、實に相すまぬ次第であつて、しかも又その始末が不十分である爲、如何に掃除屋の頭痛の種になつてゐるかといふことは、誰も承知してゐることでありませう。私はこの恐るべき事實をこゝに掲げて、更に多數の女性が、各自この問題に目覺め、何らかの方法によつて、この脱脂綿使用を節約し、一日も早くこの綿花亡國の恐慌より免れるやうに致したいと切に祈るものであります。

頃日、吉岡彌生先生推賞といふ代用品を見たのでありますが、かういふ企は殊に結構なこと、存じます。尙、在來各地方に行はれてゐた方法を研究し、衛生的に改良することも可能ではございませんか。

この文の一部分が、時事新報に掲載されました時、早速方々から、御賛同のお手紙を頂戴致したのでありますが、殊に米澤の或御婦人からは、その土地で昔使用されてゐた打綿といふもの、ことをお聞かせ下さいました。これは麻の屑で作つたといふことでありましたから、他に問合せて見ましたら、麻屑や柳の皮など、いふ植物性のものを使用したのは、山形縣下一般に渡つてのことであつた、といふことでありました。畢竟、植物の纖維をほこして綿の様なものを作りあげれば、相當代用品が出来るかと存じます。吸収力さへあれば強靱性の必要はまづないのですから、皆様方の御研究を得たいと存じます。

大阪婦人に望む

私は若い時分、大阪で數年間お世話になりました。その爲第二の故郷の様な心持で、御地をお訪ねすることを喜んでゐるのであります。さういふ關係で、時々御地の様子を伺ひますと、他事ならず種々の感慨にうたれるのであります。私はやむにやまれぬ心持から、皆様方に私のにくまれ口を聞いて戴き度いと存じます。

最近の御地の變化は實に著しく、これを二十年前と比べて見ますと、殆ど隔世の感があります。然しそのことごとくを、進歩とのみ見るわけにはゆかないのでございますまいか。もし私の觀察が間違はないならば、大阪は事ごとに東京を競争相手としてをられる様に見えます。東洋第一の都會たらんとするの希望から、先づ東京にあるだけの設備はこゝにと、望んで居られる様に見えます。智識

階級の方は、又教育機關を完備させなければならぬと、熱心に唱へてをられる様であります。然し取捨選擇の餘地のない場合は、似て非なるものが作り上げられる心配があります。然も第二の東京を作り上げ、精神的根據を失つた大多數の高等遊民を養成し、ルンペンの洪水を起したとしたならば、數百年間に築き上げられた大大阪といふものは、事實上全滅してしまふのではございますまいか。東京が突貫驀進してゆく軍隊ならば、大阪はその後援者として平和を招來し文化を植付けてゆくものでなければなりません。東京は男性的、大阪は内助の功を立てる女性、お互がお互の特色を發揮して並び立つてゆくところに、立派さがありますのでしよう。根柢の堅い財力を持つ點から、堅實な純日本の美風を残してゐる點から、本當に東京を助けてゆく覺悟を持ち、東京を立派にしてゆく様に、努力する事が、日本將來の爲、最も必要なもので、これは主として御地の御婦人の力に俟つべきものと考へられます。

私は、嘗て私の知つてゐました大阪といふものについて、その美點を數へて見

て、今もなほ否今後ともそれを繼續させて戴きたいと、希望するのであります。第一に商人らしい商人を、大阪で見ることが出来ます。經濟觀念の強いことを露骨だと評する人がありますけれど、財源が豊富で如才ない奥に眞實性があり、確實に仕事をすゝめ、ぬけ目なく打算的にやつてゆく所は、外國人に似てゐると思ひます。あるものを基にして儲けようといふ大阪と、策戦計畫を資本にしてやつてゆかうといふ東京とは、經濟的に格段の相違のあるのは争はれません。残念乍ら東京には、此處が自分の生れた處、自分にとつて一番大切な處だと考へてゐる人が、比較的少い様であります。場所が廣すぎるといふことばかりでなく、大體が土着でなく、全國からの集合で、土地を利用する人であつて、愛する人でないといふ傾があります。そこで濡手で粟を考へる人が多く、寄附の形で儲け仕事をやつたり、小利口で世渡上手で知識を悪用し、要領よくやる事を考へ、率直でない處が見え油斷する事が出来ません。教育は百年の計畫を立てること、金儲ではない奉仕的のものだといひながら、眞實さうでない場合をよく見ます。大阪で

は仕事は金儲の爲だと、はじめから明言して憚らない様であります。前に私が學校設立の計畫を立てゝゐました時、大阪の實業家の方にあひましたら、生徒が何人あつたら儲るのかといはれ、驚いた事がありますが、その方にとつてはそれが眞實であるのです。

それからやはりその頃でしたか、徳富蘇峰先生に御面會を願ひ、御教示を仰がうとして、國民新聞社にまゐつたことがありました。先生は私にどの様な激勵の言葉を賜るか、期待してゐましたら、案に相違して、お金を十分お集めなさいとおつしやいました。その時私はあまり良い氣持がしませんでした。仕事にかゝつて見て、そして今になつても、一番苦勞してゐるのは金銭問題であると、しみく考へる時、往年のお言葉を玩味してゐるのであります。本當に財源がしつかりしてゐなければ何一つ出来るものではありません。大阪は築港を完全にし、貿易商業を一層盛大にし、周圍の市を糾合しその盟主となり、そして東京のよき内助者、立派な片腕となつて、日本財政を背負つて立つ様にしていただきたいも

のであります。經濟の中心地を實際的にする爲には、大阪の實業家經營の會社、銀行の本店を東京に置くといふのは、間違つた事ではないかと思はれるのであります。序ながら申しますが、暗いカフェーが神戸ではじまり跋扈した擧句、東京に移り銀座が全國の元祖の様になつたといふことでありますが、これを持込んだのは大阪人だといふことであります。如何に金儲が大事だといつても、わざわざ遠征して、人心腐敗の微菌をまきちらすなどは、立派な經濟的市民の恥であると思はれます。

次に東京にくらべて、非常にすべてが落ついて秩序が立ち、分に安んずる心があると思ひますが、これは前申ました様に、東京が所謂お國ものゝ集合であるのに比して、土着の商人が古い暖簾を大切にし、舊習を立派に傳へて、そして眞から大阪といふものを愛してをられる、それによつて起る形であらうと思ひます。この暖簾を傳へるとか、暖簾を分けるとかといふことは、商家にとつて非常な大事な事でありまして、我國家の成立繼續と同じ精神のものと存じます。

金錢の支出についても、大體に享樂氣分を排斥し、衣食住どの點にも、立派な信念を以て、儉約を實行して居られる様に思ひます。大勢の子供を電車に乗せるよりは、自動車一臺の方が安いけれど、これは眞の儉約ではない。子供のくせに自動車に乗るものではないと、教へておかないと、親と同じ事をしてしまへば、あとで樂しみが無くなつてしまふ。男の子には殊にこれが大事だ」といはれた方がありました。實際の處、その時の物の價といふものに捉はれすぎると、むだをむだと思はず、後々に惡弊を残すことが少くありません。家々の行事も、それゝの格式によつて、中々正しく行はれて、その時々と思つきでないのは、尊い事だと思ひます。朔日、十五日に赤い御飯をたき神佛を祭ること、奉公人をねぎらふこと、それから暖簾をわけてもらつた人が、舊主人の家に紋付を着、お餅をついてもつてゆく様な上下關係のうるはしさ、それから多數の使用人が、ダンハ、お家ハンに對する態度、又お互の稱呼の上にもそれゝはつきりしたさまりのあるところ、それから大番頭が押がきいて、大久保彦左衛門格であるところ、

各家の帳簿の文字が、大番頭の筆くせに一致して、誰が書いたものも、その通りにならうと努め、又實際にさうなつてゐるところ、銘々の區別がお膳にも及んでゐるところ、かういふ風に凡ての區別をはつきりさせる習慣は、尊いことで、又一朝一夕には出来ないことでもあります。夫婦別あり長幼序あり、といふ言葉が本當に行はれてゐることは、嬉しい事でもあります。これが社會に出た時の區別にも一致するものであります。求める事が少いと不平不満が起りません。例へは一つの工場でも、たまに社長や工場長が職工と一緒に膳につきますと、これが非常に有難いのであります。あたり前になつてしまふと、有がたさが無くなります。自分と同じ物をたべてゐるのは儉約からだ、けちなのだと思ふのです。一軒の家でも、正しい區別がないと、親の有難さがわからないで、親をお友達扱ひにしてしまひ、何かと不平が起ります。儀式ばるといふ事は、窮屈に見えますが、それ位の所がいゝのであります。家庭に重きをおき、傳統を尊び、この考のもとに全日本女性によびかけ、文明の空氣にふれてゐない人を、あやまらず指導して行

つて戴きたいのであります。そして今や町筋の様に屋根のむきの様に、銘々勝手道の道のあるいてゐる、東京の生活の二の舞をふまず、特色をどこまでも残してゆきたいものと存じます。

次に舊劇の中にあられる悲劇、義理と人情との間の葛藤が、武家のお家騒動以外は、大體大阪を中心として描かれてゐますのは、色々な原因もありませうがとにかく人情に厚く、然も義理を忘れる事の出来ないのが、大阪のうるはしい處と思はれます。家と家との交際は、昔ながらの面影を残してゐます。朝起きて戸外の掃除をしても、隣との間にごみをためない、水をうつにしても、よそのところまでやる。お互に會へばやさしく言葉をかける、情を以てつきあふといふ様なこと、出入商人を大切にすれば、先方にも人情が起つて、そんなに勝手なまねは出来ないであります。こんな事はあたり前のことでせうが、昔から知り合つてゐる隣人だといふこと、昨今引移つてきた、お蕎麥はもらつたけれど、主人の顔といふのは見た事がないといふのは、随分ちがふわけでありませう。先生と

いふものに對しても、小馬鹿にしながら、自分の方都合上、賄賂の氣持でつかひものをするといふのはちがつて、先生とよぶその發音にも、特別のひびきがあつて、盆暮の挨拶はかゝらずとめる、品は粗末でも心持を差上げるといふのは、實に真情の流露と思ふのであります。明治以後禁壓制度で、五節句も廢せられ、各神社祭典の盛大さも止められました。そして遊戯も凡て西洋化しました。束縛が多ければ昔からの色々な習慣も、衰微することになります。何か遊ぶものが欲しいと、落つかない日を送つてゐるのは、精神的浮浪の生活であります。これでは思想の惡化も止むを得ません。ゴルフだのマーチャンだの野球だの、玉突だのといふ擧句、二千五百九十三年は、一千九百三十三年になつてしまひます。盆をどりも藝者の手をどりになつては、自然を失つてしまひます。私はあの年々の天満宮のお祭の形式を、充分繼續してゆく様にと願ふのであります。復活するといふよりは、繼續する方がいくら經濟上にもいゝかわかりません。

近頃旅行して異様に考へられますのは、奈良大阪間の山が、裸山になつて、今

までの森林や畑やが、葡萄畑、花畑、苺畑になつてゐることあります。これが生産的かもしれませんが、根本生活ではなく、一時的の射倖心から來た事と考へられます。そんな事で國家が富めるものではありません。農家が流行におはれ、自己本來の職分を忘れるといふのは、ゆゑしき大事であります。これも都會の惡影響と見る事が出來ませう。伊勢松坂附近の或村に、新聞雑誌を絶対に村内に入れないと、がんばつてゐたチョンマゲの老人があつたさうです。こゝは山間の小農村だつたのですけれど、風儀から納税の事まで、すべての點に理想村となつてゐたことですが、その人の死後、東京にあこがれた青年が、歸つて金魚を飼つて賣出し、お金儲をしたのがはじめで、十餘年の後、村は昔の面影がなく、米麥桑の整然たる畑のつゞいてゐたところが、自轉車とゴム靴の世界となり、借金が非常にふえたといふ事でした。これは新聞雑誌そのものが問題ではありませんが、文明の施設もあやまるとこの通と考へなければなりません。ラヂオ放送にしても、これが全國民に普及することはいゝと思ひますが、今まで知らないでゐ

たことを、さくくと見たくなる。見るとさはりたくなる、これは人情でありますから、それが落ついてゐた地方の人達を、中央に引つける誘惑の手段とならないと限りません。村に蓄音機が這入つた爲、のぼせて仕事が出来なくなるといふこともあります。野球放送などといふことも、一つの例で、それがすべての人生に幸福を與へ得るか否かは問題であります。すべてが新奇に走りたがる今日、昔ながらの落つきを持つてゐることは、むづかしい事ではありますが、それだけ又必要なことでもあります。かのハーゲンベック氏のサーカス團は、獨逸の愛國心のあらはれとして、よほどよい教訓を與へられると思ひました。象つかひも下掃除も、それぐの分に甘んじて、統一ある一の仕事に参加し、然もそれが、親より子に子より孫に傳へての繼續事業で、金力萬能を標榜し、衣食住すべて自給自足、繩一本も日本で買はずに、土地の損料以外一錢の金も日本には支拂はなかつたのであります。それでゐて高い觀覽料をとつて、東京で一回約五千人の入場者を迎へ、然も一日三回これを繰かへして、八十四日間つゞけました。この邊は目覺めんと

する大阪が、よく注意する必要があります。今や關東尊重の弊があつて、少しでも異つた風習は悪く思ふ様であります。それはあやまりで、それぐの特色に生きることが、一番大事な事と存じます。舊式をぶちこはした東京に、どんなに新しいいゝ風が出来たのか解りませんが、舊式に愛着をもち、ぶちこはし得ない關西に、多分に床しさがあると思ひます。工場地帯をひかへた大商業地にすむ皆様方は、その精神の上で、新しいものを批判して、たとへば綿花の輸入が國家經濟上の損失であるならば、その代用品を考へるといふ様に、大阪女性獨特の立場に立つて、すべてを考へていたゞきたいと存じます。新天地の開拓には眞似はいけません。皆様方のお力によつて、この大大阪を模範的都市にして戴きたいと、切望する次第であります。(十月八日)

飛行會館の一夜

俗に貧乏暇なしとかいひますが、私の生活は實に驚くべき多忙の連続であります。そこで昨夜は心機一轉の爲、知人より勧められたを幸に、竹本素女一座の義太夫を飛行會館に聞きにまゐりました。お蔭で一夜を愉快に過したのでありますが、その折感じたことが色々ありました。

先第一に目につくのは、場内の人數であります。洋式の音樂會といふと、随分高い會費をとつてゐるのに、どこでも立錫の餘地なしといふ言葉が使はれ、事實又非常に盛會なのが常であります。それに比べて、氣の毒なほどの會費で、これだけしか人が這入つてゐない、といふ事を、私は不思議に感ずるのであります。今日の人には、それほど洋樂の方が面白いのでせうか。自分の國の音樂の解らな

い人が、よその國のものに感動させられるといふのは、誠に不思議な事實であります。時には又、日本に音樂なしなど、いひ出す人もある様ですが、さういふ點に認識不足なのが、我國人の通弊ではありますまいか。昭和の御代になつてから、日本唯一の官立音樂學校に邦樂の這入つたことは、嬉しい事柄だと思ひますが、一般の人には、その妙味が十分解つてゐない様です。無論洋樂とても、比較的少數の人はこれを感じ得る耳を持つてゐるのでせうが、大多數の人は、唯附和雷同、解つた顔をしてゐないと、時勢に遅れた様だと考へてゐるのではないでせうか。尤、義太夫といふ語りものは、嚴密な意味の音樂ではないのかも知れませんが、とにかくかういふもの、妙味を解りたいと考へる人が少くて、洋樂々々のぼせあがつてゐるのは、それこそどうかと思はれます。

然しさういふ有様になつたのについては、今までの習慣が悪かつたともいはれませう。王朝の昔は、上下とも心の聲を歌に詠し節をつけて發表し、同時に音樂には人生必須のものとして、取扱はれてゐて、遊といへば音樂の事だと迄考へら

れた相ですのに、武家時代になつて、これを柔弱なものと認めてしまつた擧句、中流以上に於ては、器樂でも婦女子の遊びものにきまつてしまひ、僅に能を式樂として扱つた爲、謠だけは男が大聲を發してもいゝ様な有様であつたのでせう。元來人は歌ふ動物であります。鶯や蛙以上に、自己の感情を聲に表したものであります。然るに身分のあるものは、謠以外に發聲することがないといふことになつては、隨分生活が窮屈になり、又明朗さを缺くことにもなります。一方、地方では民謠が盛に唱はれ、町方では種々の種類の歌がはやつて、樂器も三絃の様な精巧なものが出來、それこそ、人生を唱ふといふことも出来るのですから、武士も内緒でこれを感じ、酒杯の間に於ては、日頃の嗜を忘れたふりをして、大聲を出して今日に及んだものでありませう。つまり我國に於ては、歌を唱ふといふのは、多少の取のけはあつても、まづ下等の舉動とされてゐたのであります。然るに洋樂といふものは、全然そんな制限のないものでありますから、上下風靡、これを口にし耳にすることに成り、洋樂を解せざるものは、人に非ず式の大流行

を來し、従つて解つた顔をする人も多くなつたことと思はれます。私は人の心を種としてなつた歌といふものは、當然肉聲で唱ふべきものだと思ひます。そしてその歌の効能書は、遠く昔の古今の序に明記してあります。同時に器樂もこれを嗜み、もしくは聞くといふことは、人生必須のことと思ひます。我國のは洋樂に比べて、比較的入りにくい事がありませうけれど、必しも自分が唱はなくても、奏さなくてもいゝのです。東洋的に發達してゐるものである以上、我々にとつては、一番おもしろかるべき筈であります。適當の機會に聞いて、その妙味を味ふ様にすることが、當然なことでもあります。然し私は全然洋樂を排斥するものではありません。東洋人としての差が、音樂の上に表れてゐようとも、人としての共通點を持つ以上、洋樂によつて、我心の琴線がかきならさるゝことも、あり得べきことと思ひます。要はまけをしみやみえを捨て、すべての音樂といふものに親しみたいと希望する次第であります。

私は義太夫をきいて泣かされました。梅川の舅に對する、お柳の我子に對する、それ／＼の恩愛、政岡、松王の主君に對する純情、どれにも涙を禁ずることが出来ませんでした。それは文の力だといふ人があるかも知れませんが、然し確にそれだけでは無いのです。あの切々と迫る肉聲、歌舞伎といふ形の助を借らずして、然も心の奥をゆり動かさんとする、あの強い肉聲、あの一音一音が、本當に時をも所をも忘れしめ、今眼のあたりの出來事として、私を泣かせました。洋樂は私には解りません。たゞ原語の歌などを聞いてゐる時、いつも嚴肅な事實を前にしてゐる様な氣がして聞いてゐたものでした。然るにこの頃邦語譯が流行して、ラヂオ版などによつて、それを讀む時、大方は顔の赤らむ様な言葉ばかりです。あれがもし洋樂の代表的なものとすれば、外國人は何といふ不眞面目な生活をしてゐるのでせう。と驚かされます。無論私は戀愛そのものを、度外視するのではありません。戀愛が人生の一大事實であることは、十分認めます。然し愛といふものは、眞剣な態度で、あらゆる苦難と戦つて、はじめて得らるべき、尊きものでなければなりません。行詰つた世の中には、罪のない惡戯も必要かも知れませんが、あまりにふざけきつてゐることは、一生を惡戯化することは、確に誤だと思ひます。

我國の淨瑠璃は、大體悲劇であります。その中に人々の眞情が流露するのであります。ところでその原因を考へて見ると、随分無理が多いのです。一人の横暴が多數の人を苦める場合があります。それから又、荒唐無稽と思はれる三十三間堂の様なものがあります。今の若者は、それを冷笑してしまふのです。くだらないと一口に評するのです。次にあまりに沒我的であるところに、虚偽があるといふのです。然し人の行爲に無理がなくなつたら、世の中に矛盾はないものでせうか。はなし家がよく談ることではありますが、他人に水をかけられれば、怒ることが出来る。天からかけられたら、どこに怒つてゆくのかといふ。あれが處世上の眞理を、多分に持つてゐます。世の中に住んでゐる人は、その面の變る如く、性格も境遇も千差萬別です。各の利害は一致する筈がないのであります。さうすれ

ば矛盾と考へられることが、本當の世相であるわけです。親が、りで誰からも愛せられ、世間を見ない人達には、自分の云ひ分はかなり通るものだと、思ふかも知れませんが、さうは行かないのが、當然であります。そんな場合、原因を詮議して見たとて、取除くことの出来ない障碍は、随分世の中にあるものなのです。たゞ起つた事實を肯定して善處する外、執るべき方法はあります。前に日露戦争の時でありましたか、その戦争といふことが、不條理だと考へたのでせうか、或人が「君死に給ふことなかれ」と出征軍人に對して、歌をかき送つたといふことで、大問題になつた様でしたが、悲劇の原因が、人にあるなら、その人は反省すべきでせうけれど、必ずしもさうとはさまりません。歐洲大戰後獨逸が敗れた時、この大戰の責任者は前皇帝だといふ話がありました。あの場合さうと云ひきり得るものでせうか。とにかく原因の如何を問はず、一つの事實が眼の前に起つた時は、その時に最よしと信ずる方法、或場合には我を犠牲とする、或場合には我子をも殺すといふ方法をとるのが正しいことでありませう。それを虚偽と

いふ名でけなさうといふ人は、それが魂の問題だと思はないから起る、評語であります。自分のしたいことをして行かれる世の中ではありません。自分勝手なことをすれば、屹度人に迷惑をかけるのです。正しい方法は、常に他の爲に我を殺す事があります。醫學上膿腫を根治せしめるのに、最自然で最有効なものは、健全な白血球を多くその患部に送ること、一時的の膏藥などでは、直らないといふことであります。一つの罪惡を絶滅させる爲には、多くの善人の犠牲が必要なので、その犠牲によらなければ、すべてを美化することは出来ません。元來犠牲といふものは、神に献げる關係上、少しの疵があつてもいけません。私共は常に我身を純潔にし、清淨にし、如何なる場合にも犠牲となり得るだけの立派さを持つてきたいものであります。特に我國に於ては、君とか父とかに對する場合、それは義理といふことのみでなく、さうしなければ、自分の良心が許さないのです。感情が承知しないのです。「死ぬるを忠義といふことは、いつの世からのならはしぞや」といふ語は、人を恨む言葉ではありません。「伴がなくばいつまでも、

人でなしといはれんに」これが人の道を盡し得た言葉です。我を殺す以上の苦さをこらへて、我子を犠牲にした親の心持なのであります。この忍苦の生活、喜んで苦杯を呑む心持が、我國人の他に優れた尊さであります。心で泣いて顔で笑ふといふ、その胸中の葛藤が、人としての崇高さであります。或人はいひました。「君の爲に我を捨るといふ、この心のあるところのみ、眞のキリスト教の精神が傳へられるものである。我も人もドングリの背較と考へてゐる人が、何で天帝を見る事が出来ようか」と。これは至言でありませう。

世の中は人の面の如く、千差萬別であります。故に差別即平等であります。藝によつて見臺が違ふ、座布團が違ふ。かういふ事は無駄なことだといふ一語で、けなし去ることは出来ません。すべてのものに上下の區別は存在します。才能の上にも藝事の上にも。その區別によつて、他からの待遇の變ることは當然すぎることです。たゞ一方不平をいふ人は、その階級が或場合に誤つてゐる、といふの

でありませうが、誰もかれも同じもの、筈だといひ得ないでせう。その誤の故を以て、玉石淆交を敢てするといふことは、これまた誤であります。持物によつて形によつて、その區別を明瞭にするといふことが、かういふ生活に残つてゐることは非常に嬉しいことでもあります。次に堂に入つたものゝみが、席に出るといふことになる、勵みが見つからないのですし、進歩の過程が、よく見えません。初心者より順次進んで、眞打に至るやり方は誠に面白いことと思ひます。それぐゝの力で、どこまでやり得るかといふことが、一番面白い處で、一流ばかり並べなければならぬといふことに比し、大に注目し價します。(十月十日)

社會の不安と教育者の立場

(昭和七年時事新報掲載)

先づ病源を糺せ

私は至極舊式な教育者であるが、私の意見と同じ事を考へてゐる事も多々あることと思ふ。たゞ今日の狀勢に對し、正面攻撃をすることを厭ふ心持から、その主張を述べないのであらう。然し眞理は舊くても常に新しいと信じてゐる私は、この機會に社會に向つて挑戦したいと思ふ。

今日の行つまつた世相は、各自の不明の結果だ。文明といふ語に目が眩んで、すべての風俗習慣をぶちこはした結果だ。君臣父子の分を明らかにし、長幼の序を正しくしてゐた三千年の國風が、海外から打よせて來たデモクラシーといふ大波に崩されたといふ事は、決して誇るべき事ではない。

全體人は平等だといふ事は、抽象的の語であつて、國としては君臣の分が定まつてゐる。家には親子學校では師弟社會には長幼、この區別は儼として存してゐ

る筈だ。このすべてが亂れてゐる事今日の如く甚しい時はない。然もそれは自然の勢ではなく、骨を折つて外國風に順應しようとした結果である。無論私は桃源の奥に眠つてゐた昔の様のすべてを復活しようといふものではない。然し取捨選擇を誤つた結果がかうなつたといふことは、識者の夙に認むるところであらう。

これを一家についていへば、子供に子供の世界があるごとく、親には親の世界がある。活社會に奮闘してゐる人が、疲れきつて我が家にたどりついた時、洋服も何も放り出して、座つてしまふ。自分の事は自分で仕末するものだ、子供がいふ。親は子供の純眞さを疵つけぬ程度に、何と説明するであらうか。夕飯の時つい外での不平等が出る。子供は黙つて聞いてゐる。そこに何の影響もないであらうか。朝寢坊をした親が子供に尤められて、恥かしさのあまり、陸軍大將でも朝寢すると逃げたといふ話がある。子供の理想とする陸軍大將をかつぎ出したことは随分非教育的だ。親は逃避する必要はない。親には親の世界がある、生活ぶ

りがあることを考へなければいけない。知らないでもいいこと、見せないでもいいことは出来るだけ遠ざけしむる必要がある。食事を別にすること、寢所を別にすること、子供が一種不可解の謎を親との間に作りあげる。これが昔の習慣であつた。

師弟の關係にもこれと同じことがいひ得られる。裁判官が長くも 天皇の御名によつて罪人に臨む時、その判決は神聖である。教師が教育勅語の御諭旨を戴いて生徒に臨む時、絶対權威を持つべき筈である。そこに教育の徹底がある。涙ぐましい歡喜がある。無論教師の素質は厳選されねばならない。教師自身の自覺は要求されねばならない。然し今はこの問題を議してゐるのではない。然るに「君父師といつたのは昔の事だ。自分達は生活の爲に知識の切賣をしてゐるのだ」と教へる人が、今日譯のわかつた先生の様にもはれてゐる。そこで生意氣さかりの中學生などは、教師の名を呼すてにして、あいつは馬鹿だといふことが、自分の優越を表はすものと心得てゐる。教師をへこますことを以て、學校での仕事と

心得てゐる。暇があつたらストライキを起して、霸氣を示さうとしてゐる。さうかと思ふと、又或教師は實踐躬行といふ語に捕はれて、私生活の一つ／＼に生徒の監視の眼があるやうに思ふ。自分のものは自分で洗へと云つたのだから、女中に洗濯させては罪惡かしらと考へたり、未成年者は煙草をのんでは悪いといつたのだから、自分の喫んだのを見られては大變だと、隠さうとしたり。そんなに心配して見ても、學校内の校長官舎の裏庭に、襦袢がほしてあつたといふ事實が、生徒に性的の氣持を起させてゐるかも知れない。なせ、初から大人の世界と子供の世界との區別をはつきりしておかなかつたのか。その間にある隔があることを教へておかなかつたのか。私は教師の生活を生徒に見せることは賛成し得られない。食卓は別にすべきであると思ふ。不淨所は離すべきであると思ふ。教員室には一種の威嚴をもたせておきたい。赤裸々がいゝと稱してゐる人は、子供の心の麗しい偶像を破壊してゐることに氣づかぬ人だ。

子供には夢の世界がある。心にひめた偶像がある。そのゆかしさから目覺めて

來た時、現實暴露の悲哀が伴ふ。學校生活の間は、せめてその謎の中に不思議の中に置いておきたい。實際問題にふれ例を擧げて説明し、その中に心中問題もとり入れ、政界腐敗問題を取り入れるといふのは、あまりに氣の毒だ。本當に見る目のない人あまり多くを見せようとするのは、害あつて益のない事だ。小學校でも六年になれば、上級としての責任をもたせる。しかし中等學校に入つたらば、一年生としての服従の精神を第一とする。専門學校でも同じこと、師に對し上級生に對しての態度を知らしめること、根本的に上下の區別をはつきりさせ、ふしぎなあこがれをその間にもたせること、さうすれば何かの問題にぶつかつた時、自分自身の解決が出来なければ、長上に相談しなければならなくなる筈と思ふ。人格を重んじ、おとなあつかひにすれば、自重するから間違は起らないといふことは、未完成のものを過信しすぎたことである。由らしむべし知しむべからずといふ場合は今日でもある。無論赤坊でも何でもそれ相當に人として尊重するといふことは大事だ。然しそれは同じにあつかへといふことではない。

社會的に見ても同じ様なことが考へられる。長幼の序といつたのは單に年齢をさすのではない。年齢が人間のバロメーターであつた時代は、すぎたかもしれない。然し修養經驗といふ點から見た時、當然上下の區別はつく筈だ。下のものが上のものに對し、如何なる態度を執るべきかは、今更論ずる必要もない。平社員が重役の悪口をいふ。當然の場合もあらう、然し不當の場合もあり得る。少壯教育家が、理論一點ばりで校長の批評をする。一々首肯し得ると思へない。さういふすべての問題を忘れたかと思はれるものが、今の普選だ。見識も何もないものが金力によつてのみ選れて、國家の選良と名のすることは僭越であるからといつて普選が叫ばれたが、その結果選ばれたもの、素質が、どれだけ向上したかは問題である。ある町で小學校長が相當抱負のもとに教員を鞭撻すると、その中の不平分子が町の名譽職にそのことを訴へた。生意氣だ排斥してしまへと立つた所謂名譽職は、小學校卒業程度の、教育その他町の施設については何一つわかつてゐない連中だつた。その人達は一種の無賴漢で、家名も何も考へない。何をしても

恥しいと思はない人達だ。かういふ話を聞いた時、これは國家にとつて悲惨な事實だと慨嘆に堪へなかつた。

これを要するに、單純に一切の平等を叫んだ擧句今日に及び、多くの人は反抗せんが爲に反抗するといふ風にならされ、それで快いかといふと、やはり不愉快なのだ。このいらくした空氣が、今日の不安を形づくつてゐると思ふ。教育者は世の父兄と提携して、子女をして生徒をして、その分に安んじ、他日幸福なる理解ある社會人ならしむる爲に、光輝ある歴史の精神を復活せしむる様努力すべきである。

女學生と新聞

(昭和五年讀賣新聞掲載)

女學生と云つても、茲には高等女學校程度の女學生のみに就て云ふ。中學程度の女學生が新聞を讀む事の可否、これは古くから考へられた問題である。地方の高等女學校、女子師範等では今日尙禁止してゐる所もあるやに聞いてゐる。

然し私は女學生が新聞を讀む事を禁止することは、實際出来る事でもなし又すべきでもないと思つてゐる。都會に住んで、それ／＼の家庭で新聞を購讀してゐるのに、その子女にだけ讀ませないといふ事は、實際的に出来ることでない。のみならず現代の社會生活になくてならない新聞を、女學校卒業後急に讀み始めても、決して適當に讀みこなせるものではない。

今や女子も公民權を與へられんとする機運に向つてきた。然も公民としての智識を與へる途は開けてゐないのである。たとへ學校に公民科が設けられて、正課

として教科書を用ゐて教へられても、そのみでは、畢竟抽象的な理論に陥つてしまふだらう。實際の興味ある生きた社會の事件を取扱つて、それを批判し検討し、それに對して正當な意見、見識を持ち得ること、それが公民教育の目的でなければならぬ。それには日々の生きた事件を材料とする新聞を教材として、政治的經濟的社會的の諸相或は婦人問題、思想界の諸傾向に對して、如何なる判斷を下すべきか。その見識を養ひ、その習慣を作る事が必要である。

しかし以上の事を實現するために、私は學校と新聞の兩方に一つづゝの註文がある。學校には確固たる理想をもち、輿論の趨向を窺察し得る見識あり有能なる教師を具へて、新聞の正しき讀み方と批判力を生徒に養ふ準備がなくてはならぬ。一方新聞には、健全なる家庭で安心して讀める記事のみを掲げてほしい。近頃新聞の品位もかなり向上して來て、性的犯罪の記事等に露骨な文字を用ゐる事が殆どなくなつたが、まだ廣告などで、四五歳の小兒の前にさへ赤面せねばならぬやうな挿繪や文字のある事は、誠に困つた事である。新聞の營業政策の上から

止むを得ない事かも知れないが、現在時々見るやうな、ある種の低級な雑誌などの露骨な挑發的廣告の掲載された新聞は、他に如何に教材として重要な價值を有する記事があつても、教室内で教師と女學生とが一緒に讀む譯にはどうもならない。こんなつまらない事が新聞を教育から離し學校から遠ざける理由になるのは誠に遺憾である。

要するに新聞と學校教育とは、もつと接近しなければならぬもので、殊に女學生は新聞に對して、もつと正しき讀む力と習慣とを與へられなければならぬと思つてゐる。

女學生と暑中休暇 (昭和七年夏)

暑中休暇間近になると思ひ出すのは、學校創立直後に起つた二つの話である。丁度七月半だつたか、或父兄が自動車を乗りつけて、面會を申込んだ。話の要領は、「もう半日授業の學校もあり、お休みになつてゐる處もあるのに、御校は考査や何かと云つて、疲勞し易い生徒の頭をいぢめてゐる。實に迷惑千萬だ。自分の家も、早く避暑にやらねばならないのに、いつまでかうして置く積りか」私はその見幕に驚きながらも、學校の行事につき、色々話をして諒解を求めた。處がその同じ頃、通りがりの私を捉へて、鍬もつ手を休め、一談判はじめた人があつた。「宅の娘は學校へ出してから、なまけものになつた。もとは朝から晩まで裁縫して平氣でゐたのに、この頃は一時間々々少しづゝの休養をする。こんな事では小學校の補習科にでもあげておいた方がよかつた。全體何だつて夏休みなんても

のがあるのだ。毎日集めて裁縫でも何でもさせたらよからうに」私は此の時、學校の性質や休暇中の希望やを述べ、やうく放免してもらつた。

全體識者の稱へてゐる如く、日本の氣候は休まねばならぬ程、暑いものではない。たゞ時間に縛られず、父母に對する定省を盡すこと、心機の轉換が、能率を擧ぐる點にいと思ふから、私も幾日かの休暇をつくるのである。平素學校を主にする傾向があつて、家庭としての躰が、十分出來かぬる事故、この期間にすつかり家庭の娘となつて、朝夕母親の訓誨のもとに過すといふ事が、大層いゝと考へるのである。そして單に家庭教育のみでなく、商家ならば店に出で客あしらひを習ふこと、工業家ならば自分の既知の知識で、その生産方面の研究をする事も大切である。農家ならば今丁度二番蠶の時、その手傳をするなり、又甲斐くしいなりで田の草取りをすると云ふ事もなく、或は澤庵石を持ち上げ、或は家内中の洗濯をするといふ事で、ラヂオ體操にかへることも出来る。世の中にどんな家にも屬さぬ、女學生といふ一群のある筈はない。休暇中は家政方面を見習ふこ

と、自分の家の職業を理解し手傳ひするといふことになれば、これ日も足らぬ筈である。山に海に暑を避くるといふ必要もなければ、暇もない。然も寸暇を盗んで、山に海にとさまよひ歩いた結果、病人が健康體になつたか、健康體が一層元氣旺盛になつたかといふと、多くの場合効力は零である。しかも身體を毀す人がある。心を傷める人はもつともつと多い。怠惰安逸が習慣となつてしまふ人、わけても取かへしのつかぬ創を心に刻んでしまふ人、考へても慄然たる有様である。又地方子女が歸省して、毎日ブラ／＼してゐることは、農村に非常な悪影響を及ぼし、己を毒すると共に他をも毒するものである。

全體すべての休養は、その力を養ふ準備である。植物は冬枯の時に地中での營みをする。夏休に若い人達の身體の發達は著しいもので、調査の結果、一夏に二寸も身長の延びた人がある。女子特有の生理的變化もこの時期に多いのである。従つて、精神上にも、相當變化を來すべきは無論である。此の與へられた大切な時期を、最も有効に使用し、第二學期の始めにあたり、身も心も健全にして、友

に師に見ゆること、海水浴で染めあげた顔色を誇ることとの間には、霄壤の差があると私は信ずるものである。

社會へ巢立つ女子に贈る言葉 (舊稿)

私の言ふ事は大變平凡ですが、學校を出た女子達が社會へ出る前に、先づ知つて置いてもらひたいことは、女子の天職を自覺して、その自覺の上に生きて行つて頂き度いこととあります。つまり婦人は、如何に生きて行くのが本當か、といふ事を考へるのが、一番大切なのであらうと思ふのです。生理的から言つても、亦心理的から云ひましても、女子は母となる事が第一なのです。例へ職業に就いても家庭に入つても、その立場から離れぬといふ事が大切で。

殊に上級の學校へ行かない人達に、氣をつけて貰ひ度いと考へますのは、先づ第一には読みものゝ選擇といふことです。學校を出たばかりの頃は、まだ知識慾が旺んで、何でも手當り次第に読みあさるやうですが、現時の雑誌の中には、兎角脱線的なものが多いやうですから、十分に氣をつけねばなりません。

第二に大切だと思ひます事は、美容上の事で、學校を卒業すれば、髪かみの結方むすかたもかへねばならず、着物の美しい着方も覺えなければならぬのですが、それに對しては相當の正しい知識を、もつて頂き度いものです。美容と一口に云ひますと、一寸贅澤なやうにも聞えますが、本當の意味の、いゝ化粧整容の知識を興へるといふ事は必要な事です。

第三に申し上げ度い事は、私は社會といふものを、荒波とか嵐とかいふ風には考へてはゐないといふ事です。どんな場合にても、正しい純な考さへもつてゐれば、世の中は決して慘酷でも無情でもないと思ふのです。家庭へ入る方も職業を持つて働かうといふ方も、やがては眞面目な家庭の主婦である事を念願として、正しく純な氣持で働いて頂きたいと思ひます。

全女學生同盟

日本全國の女學生は、同じ制度のもとに教育されてゐるといふ點で、深い關係を持つ姉妹だと私は思ひます。未來の日本を脊負つて立つべき責任は、孤立では果すことが出来ません。必ず力強い團結の結果の、一致協力によらなければなりません。同じ年頃の人が、同じ制度の學校に學んでゐるのです。同時に同じ數學の問題を喜び、同じ理科の解決に興味を持つてゐることもありません。同じ美文に陶醉し、同じ合唱を楽しんでゐるかも知れません。それ程の關係が、どうして途で逢つても、顔をそむける様なことになるのでせう。その原因が何にもせよ、私はこれを、悲むべき事實と思はずにはゐられません。そこで私は一の提案をしたと思ひます。一には全國女學生の服裝を同一にすること、二には互が行逢つた時、敬禮をすること、そして全女學生の團結を鞏固なるものにしたといふ、

希望するのであります。嘗て或軍人に聞いたことがあります。「新兵がはじめて入營した時、個々の服裝によつて、互に親み難い感を感じ、白眼視する傾向があるが、一旦軍服をつけると、心が一致したのを覺え、打つけた氣持になる。入營後の生活中には、袖の筋の同じ人達には、特別の親みが起り、外出して他の隊の人に行逢つても、思はず微笑する氣持になる。事ある時の舉國一致といふのは、半以上この心理から起るものである」と。男子さへさうなら、女子が形に左右されるのは論をまちません。私が天津に旅行して、一ヶ月許ゐた事がありました。途を歩く日本服の人の後姿には、前にまはつても見たく、又行逢ふと笑顔をする、默禮する、果ては生國を聞きあふ。こんなに打つけた心持も、一番はじめは服裝からであります。顔が同じといふより、姿が先づ目に這入るのであります。先日生徒をつれて長瀨に遠足しました處が、埼玉縣小川町といふ處で、停電して随分長く待たされました。その時眞向にあつたのが、縣立の高等女學校でした。休時間と見え、窓から多數首を出してゐましたが、いつの間にか兩方からハンケ

チをふりました。こちらの服装によつて、女學生と見てくれて、かなりの距離が
 ありながら、お互の心と心とは相通つたのでありませう。これが本當の情であり
 ます。ところが附近の小學校の、同窓會の話を聞きますと、六年迄一諸であつた
 生徒が、各自目ざす學校に這入つた擧句、同窓會の席上で、にらみあつてゐて、
 甚しく會の發展を妨げる、とのことであります。入學した學校に等差をつけ、或
 人は誇りに、或人は引目を感じるといふことから、さういふ面白くない結果に
 なると思ひます。この時もし、長い間の久瀾を叙すといふ風な、懐しさを表すこ
 とが出来たら、學校當局としてどんなに嬉しいか解りません。未知の人でさへも
 同じ女學生と思ふ時、ハンケチでもふりたくなるのが人情ですのに、年來の友達
 が感情の疎隔を來すといふのは、實に残念なことでありませう。この原因は複雑で
 あつて、一朝一夕に取去り得られないものでありませうけれど、とにかく相異な
 る服装によつて、異なる生活を想像した結果もあることゝ存じます。虚榮心の高い
 母親は、校服の形を學校選擇條件とする、このことも聞いてゐます。そして各學

校が争つて違つた形を定めようとするが、これはかなりの苦心を要するもので、
 東京中の校服を集めたものを見ますと、大體二十種位に分類することが出来、後
 は僅の差で、區別をつけてゐるだけであります。差別の必要があるなら、徽章な
 り何なり、他の方法をとるのがいゝでせうし、とにかく大なる團結を作ること
 を主眼として、少くとも一地方だけでも、一定の服装をさせたいと思ひます。それ
 は經濟上にも、どれだけ有利か解りません。近頃大阪あたりでは、校外擁護の方
 策を立て、東京でも計畫中の様であります。警察署に頼むといふのは隣の伯父
 さんに叱つてもらふ様で恥しいことでもありますし、角袖巡査の微行といふのも、
 小さな心を傷めることになりませう。さうすることが必要の場合もありませうけ
 れども、さうなる前に、教員同志が、注意しあふ様にしたなら、効果が大きいと思
 ひます。今とても目にあまることを、お互に注意しあひたいとは思ひますが、今
 日の様な有様では、やはり遠慮があつて、十分なことが出来ません。同じ服装に
 して、お互に約束しておけば、生徒とて往來で不行儀のことなど、しなくなるわ

けではありませんまいか？

全體、一校で校服を一定することにも、異論を持つ方がある様ですが、人はその面の異なる如く、それ／＼異なつた存在であるには違ありません。然し一つも一致點がないといふ譯もありますまい。否、ある處まで一致點があるからこそ、團結が可能なのであります。その一致團結の心持を表す爲、一定の服装をしてゐるのでありますして、學年始、入學生のあつた時などは、かなりすべてにまとまりが悪いのを以ても、形を揃へることの大切なのが解ります。子供の服装などに、多額のお金を出す方でも、校服といふと、わざ／＼こしらへるといつて、不經濟の様にいふ方がありますが、他の服装をさせることから比べて、非常に廉價ですむのでありますして、生活程度の低い人でも、女學校入學を希望する位の家ならば支出し得るのを標準として、どの學校でもきめてをられる様に思ひます。唯前に申した通、他と同じ服装ではいけない、といふことを基礎として、各自が制定される爲、かなり窮屈になつてゐると思ひます。學校關係の團體も、色々あることで

すから、委員を出して、すべての中から、よささうなものを選定するといふことも、さほどむづかしくはありません。いつでしたか、地方の青年團が上京した時、東京驛に來合せてゐた東京の青年團員が、敬意を表してゐました。これが紋付や袴では、見ず知らずの人が、青年團だといつたとて、挨拶してもらふわけには行きますまい。日露戦争當時、愛國婦人會の人達が、木綿の黒紋付で、軍人の送迎に當られました。かうなれば百姓も貴婦人も、引目を感せず、明るい氣持で仕事が出来るとあります、もし全國に、女學生の服装といふ一定のものが出来得たとしたら、形はいふに及ばず、心の上にも堅い團結が出来上ると思ひます。さうすれば、校服尊重も出来て行きませうし、副貳的結果として、特別目だつといふことがなくなりますから、誘惑を防ぐといふことも出来るのであります。私は學校教育の爲にも、校外擁護の爲にも、又未來の國民發展の爲にも、この事の成立を祈るものであります。(十月十一日)

教員室の空氣

師弟の情は、親子の愛に次ぐものであります。「子を持つて知る親の恩」が眞理である様に、教師も生徒を持つて、はじめて我師の恩が感ぜられるものであります。それほど生徒は可愛いものであり、又同時に、その生徒を興へられたることは、實に嬉しい極でありませう。自分の命令に従順に服してゐるものを並べて、教壇に立つて見渡した時、王侯の富も何かあらんといひたくなります。故に學校の教員室といふものは、常に和氣霽々たる場所であるべき筈です。私は既に愛の極致としてこの關係を述べたのであります。偶々自然の感情を我から枉げて、狷介不羈をよそほふ人などは、その點に於て、教師の資格なきものと思はれます。處で學校が小さき社會である以上、教員室も出来るだけ、違つた色彩がなければなりません。そこには、老いたるも若きも、男子も女子も、ゐなければなりません。

ん。そしてそれ／＼の特色を以て活動し、互の間は愛と敬とによつて結ばれ、教員室の空氣が常になごやかであること、これが第一番に大切なことであります。然る後、生徒に接し、感化を及ぼし、指導の任に當らなければならぬもので、もしこの點に偏つた處が出来る時、形式的には如何に立派に見えても、圓滿な人格養成の大任は盡し得られないのであります。

この小社會に於て、生徒が日々接近するものは、云ふまでもなく教師であります。故に生徒間の談話は、必ず教師の批評に落つるものであります。これは決していゝ事ではないでせうが、然し仕方のない事實と思はれます。教師の口眞似、教師の癖、何から何まで、鋭敏な觀察力を働かせて、それを話題にするのであります。唯考へなければならぬことは、生徒自身が口で云つてゐる程、教師を悪く思つてゐるかどうかといふことであります。私は事實如何は扱置いて、問題にしたいから、色々いふものと解釋してゐます。生徒の對象が常に教師である以上、事互に教師が思ひ出され、そして話題がそこに行くといふに過ぎないと、私

は考へてゐます。それで悪口だといつても、實に他愛のないものなのです。それをそのまゝ聞いた人は、近頃の生徒は先生を尊ぶことを知らない。先生が知識の切賣をして、生徒は授業料で、それを買つてゐるのだと罵るのであります。これは恐らく、教師としての樂しさを知らない人のいふことで、取るに足らないものであります。そこで、子供の言葉については、黙つて笑つて見てゐる雅量が入るのです。訓練するものと、されるものといふ相違は、越ゆべからざるものであります。指導者としての見識は、正しく持つてゐなければなりません。喧嘩相手の様な氣でむきになつて怒ると、そこにはじめて、生徒は教師を輕蔑することを覺えます。小心だとか、ヒステリーだとか、依怙最負だとかいふ風に、本當に考へさせてしまふことは、教師にとつても、生徒にとつても、大なる禍であります。廣い心を以て生徒に接すれば、たとひ年齢の若い教 でも、若きが故に馬鹿にされるといふことは、決してないものであります。

これは一般的の注意を、述べたものでありますが、既に多數の教師と、多數の

生徒とが一小社會に生活してゆく上からいつて、教師としての個々の態度が考慮されねばなりません。男教員のことは須く措いて、女性としての私は、先づ女性について考へて見たいのであります。生徒は教師によつて化せられます。悪口をいつてその眞似をしても、いつの間にかそれがうつしてしまひます。いゝ先生だと思つてゐると、歩きつき迄似て來ます。いづれにしても、若い女生徒は、日々の生活に、教師を對象として考へます。そしてあこがれを持つ頃、さびしさを知る頃の生徒は、多くの場合、お姉さまとしての先生を慕ひます。これは「制服の處女」を俟つ迄もなく、どこにも起る現象であります。女教師も三十歳から四十歳位までの間には、一種の母性愛が盛に起つて、甚しく生徒を可愛がりたいのです。この兩方から火花が散るかと思はれる時が、實に危険でもありますし、又非常にいゝ感化を及ぼすことも出来るのであります。教室で見あつた眼と眼との間にも、非常に深いものがひめられます。又一寸教師の手が觸れたといつても、生徒はそれによつて、非常なショックを受けるのであります。その時の生徒の熱度

は、正に沸騰點以上に昇ります。自分は意識しないのですが、これが他日異性を求める心持となるもので、實に一種の戀愛の變形なのですから、教師としては、湧いて來る愛を、適度に抑へて、一般の生徒に、同じ様に接する心持を持たねばなりません。君子重からざれば威あらずといひます。この生徒の危機を十分知つて、これを善處すべきであります。取扱を過つた場合には、非常に悪い結果が起ります。例へば、愛しすぎて所謂同性愛にもえた時は、他の生徒に悪い影響を及ぼし、又その愛せられた生徒は、あまりに興味を持つた結果、陰陽電氣が中和してしまつた様に、あこがれのうるはしさを失ひます。そして卒業後結婚してもその生活に對する歡喜が薄らぎ、又それほど夢中になつてゐた教師に對しては、既に心が離れてしまつてゐます。それから、生徒の氣持を知らながら、冷酷の様な態度を執ると、生徒は放心した様になります。現に先達でも、その爲に生命を捨てた人があつた位であります。それから教師を慕つたが爲に、非常な感化を受けて、人物が立派に磨かれる場合もあります。これは。教師がその純情は悪く

はないが、態度が正しくないといふことを、無言の中に知らしめ、自己の立場を明にし、生徒に對する愛を注ぎ、超ゆべからざる關を、嚴守するといふ態度で接するのであります。私自身としても、随分色々な經驗を持つてゐまして、卒業後迄誤らぬ指導をした、嬉しい記憶もあります。又死の前に訪問されて、生憎不在であつた爲、その生命をとりとめ得なかつた、胸を打たれる様な、思出もあります。實に教師は一顰一笑もおろそかには出來ないものであります。

中年過ぎた獨身の教師は、割合にきつい性質になります。愛に目ざめなかつた人、その爲に血をわかししたことのない人、つまり女性美を喚起されたことのない人、これは戰のない人であり、矛盾のない人でありますから、清いけれど冷たいところがあります。水清ければ魚住まずとか。底に大事なものを持ちながら、無理に包み終せた人は潔癖なヒステリーと見られ、近づきたいが近づけない。心の煩悶などは、打あけても解つてもらへないときめられてしまひます。立派な先生だけれど、感化力がないといふのはかういふ場合であります。人を愛し人に愛さ

れたものは、生徒の心の奥に湛へられた涙を、見のがすことが出来ません。教師としての適否は、單に學力のみによるものではありません。

次に服装についても考慮すべきであります。世の中には、先生タイプといふものを、本人も厭ひ他人も嫌ふ傾があります。先生が先生タイプであることは、男が男らしく、女が女らしいのと同じく、當然の事實でなければなりません。唯どんなのが眞の先生タイプかといふことは中々むづかしいことでありませう。昔は教師は身を以て範を示すといふわけで、地味な着物を着、化粧などいふこととは遠ざかり、それこそ眞黒くなつてゐたものでありました。その後そろ／＼雪のひら消がはじまり、あまり似あはない華美な着物を着てゐる人を見る様になりました。そして今は、非常にスマートな、寸分のすきもない服装といふものになつて、どこの令嬢かと思はれる人が中々あります。そこに本人も誇を持ち、生徒も亦それを嬉しいと思ふでせうけれど、教師が令嬢と見あやまれるのは、一つのみがひものといふ事になります。勿論その教師が、一令嬢として他に臨む場合は

ありませうけれども、生徒の前に於ては、どこまでも先生であります。令婦人が娼婦の眞似をするのと、同日の談ではありますまいが、然し職業を尊重するならば、その職業に似つかはしい服をつけることが、當然であります。誰が見ても眞なる子供の、指導者だと考へられる、服装でなければいけません。それは自己を華やかに見せるといふ事とは、非常に遠いものであることとは確であります。

近頃或お母様から、先生は生徒の姉になつて戴きたいものだ、希望を述べられたのにつき、この文を記します。(十月十二日)

女教員會傍聽席より (昭和八年八月稿)

私は一昨年さくねんの女教員會の時、會員くわいみんとして列席れつせきさせていたゞきました。あの時の明快めいやくなる議長ぎぎよりや皆様方の熱心ねっしんな御議論ごぎろんやは今も耳朶じだに残のこつてゐるのでありますが、もはや二ヶ年の時日が経過けいこしてしまひました。そしてその時當局者たうきやくしやに對たいしての要望えうぼうとかも互たがひの討論たうろんの結果けつことかいふものが、どういふ風に具體化ぐたいかしたかといふ事ことにつき、寡聞くわぶんなる私はあまりに承知しょうち致いたしてをりません。巷間ちやうかん傳たふる處ところによれば、多くの場合色々な會くわいは、所謂いはゆる不平ふへいの爆發所ばくぱつじよで、いふだけいへば氣がはれる底そこのものだとのこと實に憤慨ふんがいに堪たへないことではありますが、もし多少たせうなりともその事實じじつが見みえますならば猛省まうせいすべきではないかと存ぞんじます。

ところで今年ことしは沈黙ちんもくで終始しゆうしするつもりで傍聽ばうていを願ねがひ出でた次第しだいであります。岡目八目おかめはちもくと申まをすこととございませうからこの會合くわいがいによりて現在げんざいを見將來しやうらいを察さつする事が自分おのれ自身おのれにとり多大たの教訓けうくんであらうと考かんへたのであります。かくして得た感想かんさうは無論私の主觀しゅくわんでありますから公こうにすべきものではないと存ぞんじますが、折角せつかくのお言葉ことばでありますから一二の點てんにつき筆ふでをとらせていたゞきます。但當面たんだんの問題もんだいについてはその人がおありでせうから私どもの喋てふ々々すべきではございませう。

此こゝの會くわいが生なれて既に二年にを経へ、今や第三歳だいさいの歩あむつとけてまゐらうといふ今日こんにち、いまだ助産婦じゆさんぶの方かたにも世話せわをかけてゐる様ように見みえますのは如何いかでございませうか、發育はついく状態じやうたいを見ていたゞくならこんな立派りっぱに育やしりましたといひ得える様ようでありたい、又それだけのことが出で來きてゐないと考かんへるならばもつとく自分達じぶんたちの方かたで努力どりよくするといふ方が先方も肩かたの荷にが下おりるのではありますまいか、無論世間的見地じよりすれば今日こんにちもまだ女性にょせいは認みとめられては居ゐりませぬ。女學校ぢやうがくかうの教育けういくでさへも男性だんせいが主しゅとなつてゆかねばならぬと考かんへられてゐる世よの中なかであります。教育者けういくしやの會合くわいがいでも男性だんせいは先覺者せんかくしやを以もつて自認じにんし指導者しだうしやの立場たつぱに立ち、同一どういの問題もんだいについて女性にょせいが獨自たごの立場たつぱからいかなる考かんを持もつてゐるかを眞面目まじめに知しらうとつとめない世

の中であります、つまり一般社會に立つては暗々裡に發言權をとり上げられてゐる状態であります。せめて女教員會に於ては、小學教員と中等教員とのいづれの場合を問はず赤裸々なる發表を誰に氣がねもなくしたいものではありませんか。講師として男性の方の御意見を拜聽することも結構なことではありませうが、それは必ずしもこの會の主要事とは考へられません。討議をするために出席された筈の方が宛然講演會の傍聽者となられた感があるのは残念なことです。たとひ一國一縣の選良ではなくとも少くとも凡ての問題に相當意見を持つて集まられた方にそれ／＼出来る丈多くの發表の機會を與へてあげないといふことは會の趣旨に違ふことではありますまいか。無論獨よがりのものではないけません。男性の傍聽者が堂に満ちようともこれに臆することなく堂々の陣をはつて論議すべきであります。女性の立場から觀察し女性の立場から討議することについては一々他の鼻息を窺ふ必要はないと思ひます。それは先輩としての忠言とか異性の立場から見た誤謬の指摘とかは喜んで拜聽すべきものでありませうが。

次に目下の急務は女性の地位を高めることであり、それによつて女教員の努力が効果を生ずるものであると信じます。公立小學校長に、一人の女性を數へることとなつたのが女性の進歩延びては日本教育界の進歩であるならば、その第二人目に擬せられた人が、教育界から突然引退させられたといふことは同時に私どもの憂ふべき問題ではないでせうか。もし不適任であつたとすればそれはどういふ點であるか。又一部の壓迫より來つた結果とすればその是非曲直を闡明するとか色々考究の餘地があると思ひます。然るにこの問題がこの間の會議中一人の口からも出なかつたといふことは無關心の結果でせうか。それとも遠慮されたのでせうか。私は單に教育界といはず、如何なる方面にも女性のその長所を發揮せんと努力する時他の女性が喜んでその後援者たらん事を切望致します。なほ會議中に講演の必要があるならば相當の女性の中からそれを選んでいたゞく要はないでせうか。白木屋専務取締の人の脱線的のはなしには冷汗を流させられましたけれど、あの人の作つたプログラムそれ／＼の境遇により一見識を備へた女性の方を招聘

して談笑の中に教育者の自覺を促した結果には實に敬服致しました。女性は手を携へて階段を登るべきでありませう。缺點を探しあふ様なことでは徒に他の嘲笑を買ふにとゞまるものと思ひます。

次に出席會員の地方分布についても一言致したいと存じます。朝鮮から臺灣からそして樺太から、北海道から上京せられた方に對し多大の敬意を拂ふと共に、お膝元の又その附近の女教員の方の數の少いのには驚歎します。それから女教員中の先覺者として我々の敬服してゐる方はこの東京丈でも随分多く居られるのにその方々との會とが強い綱で結びついてゐないといふことは實に遺憾千萬なことであります。なほ、聞き手としての男性の方を各方面から網羅するといふことは女性の爲にも男性の爲にも必要なことと信じます。

勝手なことばかり申上げまして相すみません。終に望み幹部の方々の秩序ある且行届いた統制によつて非常に氣持よく有益なる日を送らせていたゞいたことを感謝致します。

目黒區女子青年團設團式祝詞

(昭和八年三月新聞記者筆記)

只今團長の方から、懇々のお諭があり、又來賓側からも、多くの祝辭が述べられました事故、蛇足をそへますことは、不必要かとも存じますが、六百の青年團員が、これだけ多くの女性が集まつてお出なのに、唯一人の女性としてお招きを受けた私が、この壇に立ち一言の御祝詞も申上げないのは、あまりにすまないことのように存じましたので、こゝに立たせて戴いたのであります。

今日は青年團の設團式であり、殊にそれが女性のお集りであることを何よりも嬉しく存じます。折から三月には珍しい大雪の爲、地上の醜きものは皆被はれ、時ならぬ花が咲き出でました。この麗しき日に、麗しい花として、花の盛の少女の團體が誕生されましたことを考へますと、この前途がいかに麗しく、いかに健

やかであらうかと心からの祝福を献げる次第であります。私どもは生れます時女の手によつて取あげられました。今日のはそれと違ひ堂々たる男子の産婆さんが、すべての力をこゝにお集め下さつて、誕生させて下さつた事故いかに丈夫に發達することとせうと、重ね／＼お祝申のべます。

天に星、地に花、そして人の中には少女、これが、この世界に光あらしめ潤あらしめるものであります。いくら月がかゞやいても、可愛らしい星のまたゝきがなければ、夜はいかに寂しいこととありませう。立派な大木がそびえ立つてゐても、そこに花が咲かなかつたならば、自然の美しさはそがれ、詩の世界はさびれてしまふこととせう。堂々たる人がどれだけより集まつてゐても、少女の美が雜らなかつたならば、殺風景極まる生活を、つゞけなければならぬとせう。花を開き實を結ぶものは、實に皆さん方です。どうぞ十分自重して戴きたいと思ひます。

知らない土地に旅行する人がその土地を視察するに二つの要點があるといひま

す。一つは道路であります。それが完備してゐる様ならば、文明國としての設備は整つてゐるものと考へていゝといふのであります。一つは少女の態度、それが上品であるか墮落してゐるかによつて、精神文明の程度があらはれるといひます。若き女性は人の中の花であります。國を清め人を和ぐる責任があります。青年團の生れるのは立派な女性の團體を必要とするからであります。女性が立派でなくては、社會を立派にしてゆくことは出来ません。大きな電氣の發明家はなくとも、エヂソンを生んだものは女であります。チエツペリンの母も女であります。青年團の目的は、互の修養にあります。これがよくなれば、社會も立派になる筈であります。

皆さん方の大多數は、青年團によつて訓練される必要はないのであります。制服の少女は校長の手によつて統率されてゐるのであります。然し學校にもゆかれぬ人と、同じ團員となつて、生活状態の低い人達とも一緒になつて、團體として行動する時、他を感化し指導してゆくことが出来るのであります。指導者の位置

に立つて威張つてはいけません。眞面目な敬虔な氣持が、不知不識の中に他によき影響を與へるものであります。

今日設團式によつてその形式は出來上つたのであります。然し要は形式ではなく、今後の實際の仕方の問題であります。私はかうして出席させて戴いた以上、皆さんと一緒に會員として、今後働かせて戴きたいと存じます。その昔釋迦牟尼佛が天竺で誕生された時、三足歩かれたとか、天上天下唯我獨尊といはれたとかいふことでありますが、それは釋迦一代の事業が、實に偉大であつた爲に溯つて誕生當時の事を考へ、この世界的偉人は、始から他と變つてゐたのだらうと考へられるのです。こゝに生れたものが今後立派な成績をあげ得た時、使命を果し得た時、誕生が單純ではなかつた。碑衾とか八雲とか目黒とかで相當の教養を経たものゝ集りであつたからだ。それゝの立派な流が集つて洋々たる海をなした結果、これだけの立派なものになつたのだと後人が賞讃するでありませう。今日いかに産婆がえらくとも、組織が完全に出來たとしても、それによつてこの團が今

後好成績をあげ得るものだと斷言する事はいかゞでせうか。キリストは厩の隅で呱呱の聲をあげたのに係らず、その時天に一つの星があらはれたといひ傳へられました。要は今後の仕事であります。皆さんと共にこの團の發展の爲に盡しませう。私も團員の一人として仲間に入れて下さいませ……賛成ならば拍手を願ひませ……大きな喜の中に私はこの壇を下ることが出來ます。

記念日を迎へて子等に諭す (生徒速記)

今日はお互に最嬉しい喜ばしい日なのであります。桃栗三年柿八年と云ふ様に、桃は三年柿は八年で實を結ぶのであります。本校も創立以來九年を経て、段々と實を結んでまゐりました。當時生れた赤坊は、小學校の二年生になつてをります。本校もその二年生であります。創立當時は、この附近の小學校も、非常に人数が少く、又人口も少かつたのでした。然し九年後の今日、小學校の人数は十倍にも越えてゐます。然して本校は、開校式當時の六人に對し、殆百倍の數になつてゐます。昨夜床に入つてから、その時以後の九年を追想し、嫣然笑つても見たり、又ほろりと涙もこぼれたり、唯感慨無量といふ外ありませんでした。あの大地震の當時、私は平塚村の戸越に居をかまへ、保土ヶ谷に勤務してゐたのでしたが、その頃あのあたりは未だ人口も少く、畑や田がずつとつゞいてゐま

した。然るにあの大震災の後には、市内から移轉して来るものが、陸續として相つき、當時の平塚村は、一躍人口五萬餘を數へる様になりました。その時私は、假普請の小山の驛に立つて、三日間眺めました。今迄裕福に女學校にでも行つて居たらしい女性が、あの大地震に追はれて、生活の根柢を奪はれて、辨當を持つて、なれない體つきで働に出かけてゆく姿が、その時いたましくも眼に映つたのでした。毎日六七十人を數へるその女性は、皆家の爲にと出かけて行くのであります。私はその人から眼を離すことが出来ませんでした。そしてその時、私の頭に閃いたのは、あゝあの娘達を墮落させてはならない。正しい國民として、國家のお役に立てなくてはといふ考でありました。強い決心のもとに私は、自分の住んでゐる家の八疊二間の二階を校舎にあて、無料で夜學を初めようとしたのでした。あの澤山な働に出る女の人々、せめて三四十人位は來てくれるであらうと望をかけて、二千枚のポスターを書いて戴き、自分が張りにまはりました。十枚に一人、千枚に百人との希望を持ちながら、自分で煮た糊をバケツに入れ、そ

れをさげて、あの道この道をさまよひました。その後の發展に、すつかり道もかはりましたけれど、それでも今日至る處に、私の戦のあとを見ることが出来ます。眞直に丁寧にと貼つてあるくポスター、それが歸りに見れば破られてゐるのもあります。風にあふられてはげたのもあります。果してどれだけが人の目についたことでありませう。これでは役にたかないのだらうか。どういふ方法を取る事が一番いゝのだらうか。かう考へて眠れない夜が幾日あつたこととせう。一人二人と来る生徒を數へてゐる中、千枚のポスターに六人の生徒が得られました。開校式に列したのは、生徒の六人に對し教師が八人、そして附添は七人ゐました。それから苦心に苦心を重ねてゐる中に、三四十人になつて來たのであります。そこで、家の側にバラックを建て、許可を得て夜學の平塚裁縫女學校が出来上りました。それがこの洗足に移轉して、晝夜の學校として洗足裁縫女學校となつたのであります。洗足に移轉の時、洗足高等女學校を併立することにしました。そして今日、生徒は六百に近く、學校としての形式も、先づ整ふ様になりました。大

正十三年五月一日に平塚裁縫女學校といふ長女が生れ、大正十五年三月三日には洗足高等女學校といふ、後とり息子が生れたのであります。その子供達を、お役に立て、戴かうと國家に献げましたのがこの十月十三日であります。人間は生んだだけでは駄目であります。それを立派に養育して、お上のお役に立てなくては何にもなりません。この學校は九年前に播かれた種によつて、昭和五年十月十三日財團法人として、國家に献げた爲、實が結ばれたのであります。私はこの有意義なる日を創立記念日と定めて、今後の發展を期したいと思ひます。

處で私は、自分がバケツを下げ、ポスターを貼つてあるいたことを追想するのであります。大方私の髪は亂れてゐたでせう。着物もだらしなくなつてゐたこととせう。然もそんなことは考へずに、すべてを忘れるほどの眞劍味で、百枚二百枚三百枚とあゝして貼つてまはつたその時の氣持は、今思つても涙ぐましいものがあります。もし私が、誰か見てゐはしないだらうか、何かいはないかしら、恥しいことだなど、くよくよして自分の身振のみをかまつて、自分の正しい目標

をおろそかにしてゐたならば、決して學校は出來上りません。そして今日の喜は與へられなかつたのであります。今後のあなた方に、この點を十分考へてもらひたいのです。未來にあこがれを以て進む爲には、現在の勤を正しく行つて行かなければならないのであります。手鍋さげても何でも、恥しいことはありません。人が見て笑ひはしないかといふ様に、すきのある人は大事はしとげられません。自分のきめた、正しい目標には、人が何といはうが、確乎とした決心を以て、進んでゆかなければなりません。「彼等はそのなす處を知らず」。冷笑嘲罵に報いるに、この語を以てするだけの決心がなければなりません。本校の標語である「理想は高遠に、實行は卑近より」をこの日に十分決心してほしいものであります。

互に足を洗へとのりし御教守るこの學舎

胸にかがやく眞澄の鏡朝な夕なに照し映さん心の影を

あつからなる心の眞玉うますたゆまず磨き磨かん清く正しく

互に足を洗へとのりし御教守るこの學舎 (十月十三日)

恩賜金拜戴を忝なみて

昨年十月三十日教育勅語煥發當日、私立中等學校組合に對し、畏くも、恩賜金を忝うし、組合員一同、感泣措くところを知らなかつたのであります。當年も遠からず、その記念すべき日を迎へることとなり、記念の會合があるといふことを承りまして、一年前のその感激が胸に甦りました。その拜戴記念式のありました日、式後有志祝賀會が開かれましたので、席末に列る光榮を得、その席上で一言を述べさせて戴きましたことを、今思ひ出しまして、次に掲げます。

本日この懇親會席上に御集りになりました方々の中で、私ほど、すべての點で小さいものはないと存じます。私の學校は市の場末にありまして、しかも開校後日も浅く、生徒も少く、そして私は又御覽下さいます通り若輩で、學歴も經驗も

ございません。どの點から申ても認められる筈のないこの私が、只今の御指名にあづかりました事は實に意外に存じます。理事長の荒川先生は、恐らく皆様方の中で、最苦しい立場に立つてゐるものとして、その日夜苦しみぬいてゐる私の體験を、かたらせて下らさうといふおぼしめしだらうと考へられます。就ては御遠慮を申上げず喜んでこの席に立つ次第で御座います。

數日前の事ではありますが、私は或小學校を訪問し、校長にお目にかゝつたのでした。ところが校長の申されるには「前田先生、あなたは今度随分損をいたしましたね。某の學校は町立といふ事にしてあつた爲、今度の併合のおかげで、一躍東京市立といふ肩書がつけられる様になつたぢやありませんか。あいた口にばた餅とは此のことでせう。あなたももう少し早く氣がつけばよかつたのに。これから随分その影響を蒙つて困る事です。本當に氣の毒なことでした」私はこの親切な校長の御言葉に共鳴することが出来なかつたので、感謝の意を表する心持にもなれませんでした。そして「頭の字が二つばかり變化したといつて急に内容が變化

するものでもありますまい。私は私立であるといふ事を恥しいと思つた事はありません。斷然……。要は内容の充實にあるのですから、決して卑下する必要はないと思ひます。」と申しました。歸校後職員にも生徒にもその話をしてきかせまして、今まで以上緊張して立派な學校にする様に、十分の覺悟を以て進んで行かうと約束致しました。さうした折から、この様な恩典を蒙ることになりました。私がいかに感激し、又光榮に存じたかは、恐らく皆様の御想像以上と存じます。申までも御座いませぬが、陛下が私立の學校といふものに、特別の思召を垂れさせられて、かく優渥なる御沙汰をたまはり、御内帑金を下しおくれましたといふことは、實に忝い次第でございました。社會もこれによつて、私立といふものの力を知つてくれることでせうし、一校の校長さへ、その名によつて氣の毒がるといふ様なあやまつたことは、今後取除かれることゝ存じます。然しその爲には、一層の責任を感じます。生命を賭けてこの仕事を致してまゐりたいと存じます。それが 大御心に答へ奉る唯一の務でございます。

今日は午前の會議から引續き嚴肅な式場に列席させていただき、何とも申難き嬉しい心持でございます。皆様の中で一番苦しい立場に立つてをります私が、今日は一番にこゝしてゐますのかも知れませんが、それを御認め下さつて本當の感謝の辭を申述べさせて下さらうといふわけで、おえらび下さつたこと、存じ、荒川先生に御禮を申上ると共に、今後の覺悟を申述る次第で御座います。

(十月十四日)

工場主に望む

今日資本家對労働者の確執は、我國のみならず、世界に涉つての問題となつてゐるのであります。この間に一大工場を立て、多數の男女を使用してお出の皆様方には、實に人知れぬ苦勞もあつたこと、お氣の毒に存じてゐます。由來弱きを助け強きを挫くといふ事が、ゆかしい國風と考へられた結果、玉石混淆、強いものは必ず横暴を極めるものの如く、思はれてゐるのは、どんなにか御迷惑なことでありませう。人に兩性の區別がある如く、違つたもの同志が、互に働きかけるから、大きな仕事が出来るのであります。資本と勞力とは、互が各自の特長を活かして、仕事をして行くべきもので相争ふべきものでないのは無論のこととであります。私も一年餘、工場内に生活してゐました爲、この間も餘暇をさいて、ある工場を參觀させて戴き、相當内部の空氣にふれた心持も致しました。完

備せる組織の内で周到なる御注意の下に、働かせて戴いてゐる女工達は、いかに喜んで仕事をしてゐる事でありませう。働かせるものとして、仕事の上についてのことは、問題外と致します。唯、若い娘を預つて、一人前に教育して出になる立場に對し、私の卑見を述べさせて戴きたいと思ひます。普通の女學生と女工との間には、相當差違のありますのは無論であります。一般に女工の方が、教育しにくいといふ風に、考へる方もありませうか。私は却つてその方に面白味がある様に思はれます。教育程度の低いものは融通のきかないものでありますが、その爲に猶更、環境に支配され易いのであります。それで、一定の場所に置き、一定の服装をさせて、小遣も濫費しない様に、貯金帳を預るといふところまで、徹底して監督してをられる場合、力強い指導者の下に、一も二もなくついて來る様になるわけであると存じます。絶対服従によつて出來上る平和は、個々の人格的の力を持たないからだめだといふ方もあります様ですけれど、私はやはり、服従せしめる事をよしと信じ、どこまでも主張するものであります。取捨選擇の出

來る様にする爲には、堅い基礎が出來てゐなければいけませんでせう。その基礎を作り上げる時には、些の迷も持たせてはいけないものと存じます。どこまでも、この道が本當だ、こゝばかり見つめてゐると、教へたいと思ひます。あれもこれもある。それ／＼に特色がある。然し今の我々には、これをとるべきものだといふ風なことは、多くの場合、人を迷はせるにすぎません。何といつても子供は純なものです。そして眞剣なものです。信ずる人より教へられることは、深い根ざしとなつて、その人の一生を左右しますでせう。私は自分の學校の生徒に、映畫を禁じ雑誌を禁じてゐることを、時代遅れと笑はれてゐることも、十分承知してゐます。然しそれ等のものゝ誘惑が、いかに強いかは、知りすぎてゐます。深淵に臨んでゐる人を、後から引張つてゐるのは、徒勞だといふべきでせうか。

私の見る處では、女工となるものゝ大多數は、農家の娘であります。その人達は多くの場合、農に就ては一の誇を持つてゐます。工でない商でないといふ處に、昔ながらの階級意識を、心に忍がいてゐます。その心持を尊重して、農家の

娘としての教育を、施して戴きたいのです。一定年限の後歸郷した時、直に農業に親み得る様に、常住坐臥、農業鼓吹をして戴きたいのです。勤勞の程度は變つても、その精神に變はないことを、教へて戴きたいと切望します。もしそれが出来なかつた時は、その娘は、一定の間も金を稼いだといふ外、何の得る處もないものになり、後の一生は、浮浪の生活に終るかも知れません。それが又、農村の黴菌となる様なことにもなりますと、二重三重の損失であります。この點から考へますと、せめて都會に住んでゐた土産として、優美を味はせようといふ意味で、茶の湯・活花・刺繡・袋物等を教へるといふことは、再考を要するものではありますまいか。出来るならば、川口愛子先生式の、廢物利用を教へ、手早く洗ひ張り縫ふといふことを練習する方が、もつと〜緊要であると思はれます。それから、採用地方についても、大體分布的に工場にある時の精勵ぶり、歸郷後の活動状態など、統計でもおとりになつて、地方的長所を調べ、成績良好の一地方から、まとめておつれになり、今までの生活交友範圍といふ風なものを、出来る

だけ残してやるのが、本人どもの望でもあり、躰の上にも有効で能率増進上非常にいゝことかと考へます。現に先達も伺した工場などでは、歸郷後結婚した女工とその夫とから、時々時候の挨拶など缺かさなない人が相當にあるといはれ、嬉しい事實と考へたのであります。つまり私としては、工場主の皆様が、女工の教育者としての自覺を明確にして、次代の國民養成に貢献せられんことを希望する次第であります。(十月十五日)

水久保澄子に與ふ

秋冷しゅうれいの候ですが、お變りありませんか。扱さてあなたが餘暇をさいて、學校がくかうを訪問したいといはれた、その傳言でんごんは、たしかに承知しょうちしました。それから後の私は、いつもくあふ時のあなたの様子を、心にゑがいてゐます。あなたの服裝ふくさうあなたの態度、それは校服かうふくを着てゐた時のあなたと、同じではありますまい。然しあなたは前の通とほりのあの眼のかがやきを以て、私を正視せいししてくれるでせう。あなたの表情はあなたの前と變らぬ清さを、私に示しめしてくれるでせう。さういふ風に想像さうざうしては、私は安心と次に起る歡喜くわんきとを隠かくすことが出来ないので。或雜誌あるざっしに書いてあつた様に、あなたは今も私の精神せいしんを體得たいとくしてゐて下さるだらうと、本當ほんたうに嬉しく思つてゐます。職業しよくげふは神聖しんせいであります。そして女性ぢよせいの職業戰線しんしゆつに進出する事は、世の中に美と潤とを持來もってきたらせるものと私は信じてゐます。ことに天賦てんぷの能力のちりよくを持

つてゐるものは、猶更なほさら己おのれの爲にも世の爲にも、その事の達成たつせいに精進しやうじんすべきであります。しかもあなたの背後はせいごに、あなたの力によつて、生活せいくわつし、喜を感じてをられる親御おやごさんのあることを考へることは、私に一入よろこびの喜を興へます。立派りっぺいに親孝行おやかうかうをしてゆかれるあなたは實に仕合せしあはせものであることを感謝かんしやすべきです。

扱さて久しぶりの會見を前にして、珍めづらしさ嬉うれしさに、私の胸はをどります。屹度きつとその時は何も話はなすことが出来ないのではないと思つて、今私いまわたしの話したいことを書きます。私はもともとからあなたの純真じゆんしんな性質を喜び、體育堂たいいくどうのステージに立つた姿には、或才能あるさいのうの閃きを見てゐました。不幸ふかうにして中途退學ちゆうとたいがくしたとしても、早くから世間の仲間入なつかいして、自ら磨みがいた點が色々ありませうから、教養けうやうの上にも心配しんぱいは入りますまい。そのあなたが銀幕ぎんまくに現れて、諸人しよじんの喝采かくさいを博ひろすると聞いては、本當ほんたうに飛んで行つても見たいものと思はずにはゐられませんでした。然しあなたも知つてゐる通、私は全生徒ぜんせいとに對し、映畫えいがわを見ることを禁きんじてゐました。今もやはり同じ考を持つてゐます。映畫えいがわは今或處いまあるところでは、教育けいようの材料ざいりように使はれてゐます。科

學的變化を擴大して見せるとか、世界に珍しい景色を現すとか、事件を身その所にあるが如く寫し出すとか、色々効果のあるものがあります。然し多くの場合、多數から歓迎されるものは、さういふ種類のものではありません。普通に映畫には、面白い刺激の多い世相が現されます。それが世の有様である以上、我々はそれを知つた方がいゝ、といふのは一面の眞理であります。然し纏つた本によりてその同じことが教へられる場合には、單に事件の成行ばかりでなく、否事件そのものは、従であつて、その奥にある精神を、主として讀まねばならない、といふことが教へられるのです。然もさういふ點を味ふには、映畫はあまりに、目まぐるしいではありませんか。そして事件が瞬間的に運んで、直に終局が現れるなどといふことは、實際にはあり得べからざることです。これを見これを楽しむ人は多くの場合、深みのない人であります。そして又、深みのない人を作り上げる力をも、映畫は持つてゐる様です。今の世に多くして、しかも不必要なものは、この淺薄なる小才子です。刹那的の心持を以て、辛抱の尊さを知らない人達です。

かく成人した人をも動かすほどの力を持つてゐるものを、未だ勉學の途にある人が見ることは、實に危険な事であります。私が或點までの効果を認めながらも、然も禁止のやむなきに至るは、さういふ見解からであります。今一つ私があなたの姿を見に行かないことは、生徒があなたにあげられを持ち、その後塵を拜せんとする人が出来ることを心配するからです。某學校で寶塚志願の人が三人とか一時に退學した相です。それから後、その人達が上京することに學校を訪問する。そして友達が皆それにあてがれ、それに倣はんと心を起し、その爲興業中争つて見物に行く、その人の在京中その組の人達はそはくしてゐる。これでは困るといふので、校長が厳しく申渡し、又さういふ人の出入を止めたといふことでありました。私は前に述べた様な理由で、長いことあなたに逢ひませんけれど、あなたの出入を止めようとは、決して思はない。寧ろ卒業生同様の氣持で、學校に來てほしいと思ふのです。私は今如何にあなたの訪問を待つてゐるでせう。そして來月十一十二兩日に催される文藝會には、是非來て、何か餘興をしてもらひた

いと希望してゐます。それから又その他の折にも來校して後進を諭してもらひたいと思ふのです。そしてどんな職業でも、眞劍の氣持でなければいけないこと、華やかに見える仕事の奥には、人知れぬ涙のあること、本當に天から恵まれた資質を持つてゐなくては、自分の望ばかりであなたの様な仕事はやれるものでないことを、話してきかせてもらひたいと思ひます。これは隠すべきことではなく、積極的に諭すべきことであります。あなたを利用する様で、誠に濟まない事ですけれど、準卒業生としてのあなたが、もし今申た様なことを皆に話して聞かせて下さつたら、どんなに教育上効果のあることでせう。かういふ風な意味で、今私は非常にあなたの訪問を待つてゐるのです。文藝會についての依頼は、あなたにおあひした時、よくお話することにしませう。さやうなら。

姉上も一緒に來て下さるといふお話で喜んでお待してゐるのです。あなたの仕事に就ては多少とも聞きもし考も立てられますけれども、姉上の方のは全然

未知の世界ですから。お出下さつたら色々聞かせてもらひたいと思ふのです。どうぞよろしく御傳へ下さい。母上にも時々お遊にお出下さる様おつたへ下さいませんか。それからあなたの監督の方にはいつかの機會にお目にかゝりあなたを保護し指導して下さるお禮を申し上げたいと存じます。まづは、(十月十六日)

ア パ ー ト 是 非

先日某雑誌社から、女學生を表彰するについて、適當のものを選び出す様にと
いふ書面がまゐりました時、私は破つてしまひました。然るにその後、教育界に
於ける功勞者推選に關する書面が來ましたので、非常に嬉しく思ひ、私の學校の
一人の先生を推舉致しました。同先生は、地方の師範學校卒業後、北海道に奉職
十數年間無缺席無遅刻で、勤務されたといふ點で、道廳より土地一萬五千坪を貸
下げられました。これは目下の俱知安市街地で現在の時價として幾十萬圓の價値
を保つものであります。然るに友人某が、先生の人を疑ふことを知らざるに乘じ、
委任狀に捺印を要求し、その權利を奪つてしまひました。その後中等教員の資格
を得られ、東京の某學校に勤務廿四年殆ど遅刻缺席なく恪勤されたのですが若輩
の却くる所となり、然して今日に至つたのであります。良教育家は生徒あるを知

つて、我あるを知らず。多くの場合、人後に立たされます。實に尊くもいたまし
い事實と思ひます。私の推舉の理由はそこにあるのであります。

今日の人は若者ばかりをおだてます。おだて、何かさせようとするつもりでせ
うが、若くして名高くなるのは、本人としてもどれだけ苦痛か解りますまい。そ
の名聲を維持する爲に責任を感じるといふことはありませうけれども、實際、未
來あるものに對し、一旦の見方によつてその價値を定めるといふ事は、一種の悲
慘事の様に思はれます。時々新聞にも表れる様ですが、皇國の勇士でも、その體
面を汚す様な行爲がないとはいへません。赤穂四十七士に死を賜うた時、一には
その終を全からしむる考があつたと聞いてゐます。一旦の進取は後の持久に比し
ては、易いことかも知れませんが、それ故將來に未知數を持つものよりも、功なり
名遂げた人に對する優遇法を考へる事が、一番大事だと思ひます。老後を安くす
ることが出来るといふ約束があるならば、すべての社會に墮落はありますまい。
人氣商賣の女性が、若さの失はれた時のことを考へると、肩を入れてくれる人に

身を托す様にもなりません。ことにどの方面でも、眞面目に自己を活かし働いてゐるものに、十分の保護と死場所とを與へることは、社會として、一番大事なことでもあります。外國の宣教師の婦人などが、献身的の働をして、少しも老後の憂のないのは、その制度が完備してゐるからであります。外國には、老婦人用のアパートがあつて、前に相當出資しておけば、後に收容されて、氣安く老後を送り得る様の仕組になつてゐます。それは養老院などの様なものではなく、非常に満足して楽しく住むことが出来ることです。それですから、安心してこやかに仕事に従事し、又収入の殆んどすべてを公共事業に寄附し、社會奉仕が出来るのでありませう。我國でも震災後、各所の救濟義捐金を以て、青山、代官山其他に同潤會アパートを作つて、食堂娛樂室其他、色々完全に近い設備をした様であります。それを利用するのは、獨身婦人にしても若夫婦にしても、窮屈な家庭から避難した人達で、自我主義の養成には、最適當に出来上つてゐて、自然自墮落を奨励する様な形になり、掃除も何も無責任極まるものであるが、小言のいひ

手もなし、鍵を閉せば、夜はダンスホールに通ふにも、銀ぶらから映畫館入りをするにも、至極便利であります。これでは相當謹直だつた人でも、立派な我儘ものになります。單に社會事業としての損失のみでなく、世に害毒を流さしむるものといふべきであります。

夏休などに、他の家庭など訪問して見ますと、若い人が一緒に住んでゐる様な家は、大抵その人達が避暑に行つて、老人が留守番をしてゐます。今の若者は老人よりは弱くなつたと云つて、濟まざるべきことではありません。止を得ないのもあるかも知れませんが、大抵は、老人を度外視する習慣がついてゐるから、留守番してもらつても平氣なのです。この悪習は一朝一夕になほらないとして、せめて社會事業としてのアパートの方は、もう少し方針をかへて、老婦人保護といふ風に出来ないものでせうか。同じ老人でも男子の方には、老後まで相當収入の途が與へられる様ですし、又一家の功勞者として、家人も粗末にはあつかひませんけれど、身一つで社會的に活動した人などは、假令物質的に恵まれてゐる場

合でも、精神的慰安を求めざる機会が、割合少いのであります。私は幾多の悲惨なる事實を前にして、殊にこの思を深くするものであります。(十月十七日)

國語の尊重

虚見通倭國者

言靈能佐吉播布國等

皇神能伊都久志吉國

加多利繼伊比都賀比計理

我國民は先天的性質によるか、四圍風景より受けた、後天的感化によるかは、解りませんが、非常に優しい氣持を持つてゐます。人と我との共存共榮は、太古以來行はれてゐました。人に對しては、所謂赤き心を以て、相親しみ相敬し、事ごとに互に祝福の言葉をかはすのが普通であり、従つてすべての禮は源をこの精神に發してゐました。正月は一年中大切な時で、或きり目であります。この一年を有意義にと考へる時、朝の日の出を拜み、おめでたうと祝ひあひます。これは未來に對する希望と共に、當然しかあるべしと信ずる心持を表すのであります。賀川豊彦先生は、「正月は祝ふべき理由がない。地球が一まはりしたただけだ」とい

つも云はれる様ですが、これは又形式に捕れるのを慨していはれることかと思ひます。扱人と一口に云ひましても、性別・年齢・身分・境遇は千差萬別であります。その他人との間に、時と場合によつての、意志感慨を表明するとすれば、勢ひ、多種多様の言葉遣を必要とします。そして我國に於てはそのすべてに適應する言葉が、それ／＼定まつてゐるのであります。語彙の豊富なのは、我國の特色であります。それこそ言靈のさきはふ國の稱呼の通りであります。

然るに今日の我國人は、あまり言葉に重きを置いてゐない様であります。我も人も平等だといふ考からか、西洋流に同輩に對する言葉唯一通りですべての用を足さうとしてゐます。これは實に大なる間違を起す基ではありますまいか。言語は君子の樞機なりといひます。同輩に對する言葉ですべてを濟まさうと云ふことは、長上を認めないことになります。尊敬すべきものを、考へ得ないことは、我國民としての素質を缺くことになります。これは實に由々しき大事であります。それから今日の世相は、何もかも行詰つてゐるといつて、言葉も意味が解ればい

と云ふつもりで、一切の關係を捨て、一切の感情をぬきにして、手短にやつてしまふことも流行する様です。モボ・モガ・エロ・グロ・プロ・ブルはあまりにふるめかしいのですが、萬事この調子で意志を通じて行きます。道で行きあつた時でも挨拶はぬき。ゆく？ もち。これでお互の心持が通じ、親しみがあふれてゐるつもりでゐる様ですが、いかに同輩同志にしても、これでは尊敬とか祝福とかいふものが求められません。そしてそれが女性の挨拶だといふのですから、驚かされます。

教育の根本は、先、正しき國語を教ふるにあります。すべての場合に、それその對者に向つて、誤なき言葉を以て意志を通じて得ることはやがて正しい國民精神を會得し得たことになります。親愛と尊敬と祝福と、これが直ぐ清く明き國民の目標とすべき點であつて、同時に全世界を美化する精神の基礎となるものであります。

人の上に立つ人は、ことにこの國語を尊重し、正しい言葉を使用してほしいも

のであります。お上のことを申上るのに、變に詰つて、自分の方に敬語をつけてしまつたりすることが相當教養あるらしく見える人々にもあります。又方言まるだしを以て、自分の尊大を表さうとする人があります。官吏公吏の方は勿論のこと、光榮ある國家の選良などは、まづ發音を矯正し、標準語を遵奉し、本當の日本人として恥しくない様になつて戴きたいものです。明治時代の壯士芝居では、巡査は九州言葉でないといふと、威嚴を保てなかつた様であります。それは昔の夢と過ぎたのであります。尤地方的特色ある方言を、家庭の通用語とされるのは、この限ではありませぬ。(十月十八日)

弱きものよ汝の名は人なり

人の心ほど、靈妙不思議のものはありません。神にもなる惡魔にもなるといひますが、本當に考へると自分でも自分の心が心配になります。私が大震災の時、負傷しながら皆を集めて、互に誓つたことは前に記しました。その時のすべての人は、必死の色をして決心を表しました。二三日はそのまゝで、誰も何の執着もなく、感謝の日を送りました。然るに諸所から救恤品がどん／＼來はじめた四日目あたりから、そろ／＼皆の弱點が表れ出しました。朝から晩迄、貫物の整理をするほどに、米もあり罐詰も山積する。竈も復舊し、寢所も安定し、つぶれた屋根裏を整理して蚊帳もつれる様になると、今迄持つて居なかつたと思はれる、さもししい心がそろ／＼出て來ました。玄米を食べてゐたものが、白米でなければならぬ心持になり、罐詰も、我勝に懷に入れる、まだその上に男工との間のい

たづらまで、始まつてしまひました。梁を傳つたりして忍びあふ様になると、晝間の仕事がいやになります。何といふ精神状態の變化でせう。數日前迄あれだけ緊張して、勞働してゐた人達が、この一大變動によつて、何かしら解放された様な氣になると、食欲と性慾とが旺盛になつて行くのでした。この自暴自棄の行爲には、私も随分困りました、女工だけを集めて、慾望の抑制につき話をし、一諸の蚊帳に寝て番をすることにしました。残念なことに、この會社はそのまま閉鎖になりましたから、もとの落着にかへすことが出来ずに濟みました。大なる變化の前には、心がかき亂され、氣の弛む時には、すべてが自墮落になるといふのは、人の常なのでせうか。

今日の多數のルンペン中には、實に氣の毒な境遇の人もあるのでせうが、大多數は我から自暴自棄になつたのではないかと思はれます。それが又群集心理で、わざと世を呪ふ様なことを口にすると、心持も漸次荒んで行くのでせう。恒産な

ければ恒心なしといふのは、本當でせうが、自分の働のことは考へず、恒産のないのは、社會の罪だ。故に恒心のないのはあたり前だといふ風に、應用されたのでは孟子も困るでせう。私は、運命は人格の結果と云ひたいのです。ルンペン相手の商賣や、一番繁昌するのが、飲やであります。これは嘘の様な事實です。又ルンペン宿屋に行つて見ますと、寝ころんでゐる人、棋を打つてゐる人、どうしても遊民としか見えません。放浪が男子の通有性なのでせうか。そして監督の人が見まはつても、お辭儀一つするではなし、感謝の様子などは少しもありません。あゝなつてしまつては、たとひその人に食を興へても、それによつて、働氣は起らないでせう。職がないから惰けるか、惰けるから職がないのか、それは一律にはいへますまい。不思議に思はれたのは、その中に一人も女性のゐなかつたことです。その人達の十が十迄、貞操を賣つてゐるのでもありません。必死になれば、何か仕事を見出すのでせう。方面委員の方などは勿論のこと、社會事業の局に當る方は、救護の均霑を考へる前に、群衆心理の爲に、信念を失つてゐ

る人の中からでも個人の状況を審査して救済の計畫をして戴きたいのです。

群集心理の例として、未恐ろしいものを、私はこの間見ました。丁度澁谷の通を出ようとした時、青山會館からあふれて出た、模擬試験がへりの児童の群にあつたのです。彼等は非常に疲れて氣持はすつかり弛緩してゐるのです。そして三々五々、喫茶店に入り込みます。それから圓タクを値切つて飛ばすものがあります。これ等は家庭の庇護の下に立つてゐるものゝ行爲ではない筈であります。安心しきつてその擧句、理性を失つてゐる有様としか考へられませんが、私は模擬試験の可否をいふではありませんが、監督者なしにあゝいふ處に行つた児童が、自分達だけで、成人の様に行動するといふことの弊害を考へるのです。丁度その時帰宅後聞いたのですが、私の近處の児童で、その青山に行つたのが、あまり歸りが遅かつたので、親が聞たゞしたら、喫茶店に這入つたといふことで、非常に驚いて、早速先生に申上げ、先生が来て小言を云つて下さつた。神妙に聞いてゐ

たその子が、先生の姿が見えなくなるや否や「話せねーな、野暮な先生だ」といつたといふので、又吃驚しました。その青山會館の試験場の様子を聞くと、ぎつしりつまつて試験をうけるので、勢、カンニングする。そして成績発表といふ事があるので、そのカンニングによつて、親の手前もつくろへるといふのです。かうなると不斷の躰も何もだめになつて、何も知らぬもの迄、多數の勢で、よくないことを教へられる様なわけになります。

人は弱いものです。その點子供も成人もかはりはありません。とすれば、自分氣を引しめてかゝつてゐるといふのは、いふ迄もないことですが、やはり危きに近よらざる用意が、最大切であります。前車の覆るは後車の誠とは、今も變らぬ眞理であります。(十月十九日)

試験地獄につき

秋寒の今日この頃、夕暮の薄暗にすれちがふ子供の群、時には一人二人、いづれにしても、疲れ切つた顔で、とぼ／＼歩いてゐるのを見ますと、「我子なら供には連れじ」といつたその場合と非常に違ひながら、それでもこの句が考へられま
す。「今まで何してゐたのですか。入學準備の豫習はしない事になつた筈なのに」といひますと、どの子供も「復習をして戴いてゐるのです。豫習といつてはいけないと、先生がおつしやいました」と答へます。やはりこの子供達は、半年の後
の試験地獄に一步步近づく爲の準備をしてゐるのであります。毎度申すことな
がら、なぜこんな制度が黙認されてゐるのでせう。これは制度の缺陷か親の虚榮
か。いづれにしてもその爲、全國幾萬の子供が、今や發達すべき身體を、いかに
残忍にふみ躪られてゐるでせうか、實に聖代の不祥事であります。

人は死ぬまでの間、試験されてゐるのです。見方によつては試験地獄は、中等
學校入學の關門のみには止まらないかも知れません。人としては自己の能力の限
を發揮することが、一番大切です。然しそれが自發的にのみやつてゆかれるでせ
うか。常に試みられてゐるから、進歩があるのでせう。成人にしても自分達の考
で、研鑽といふ風なことは、中々出来るものではありません。まして遊びたい盛
りの子供には、時々刺激は必要でありませう。家庭の母親が、我子の勉強振を
觀察して見れば、その邊の消息は解ることとせう。もし學校で試験がなかつたと
しても、子供が勉強すると信じ得る母親がありませうか。さうして見れば、試験
の名目を考査とするなどいふのは、一種の姑息策ではないかと思はれます。子
供の時から、毎日の勉強によらなければ、何も成業するものでないといふことを
十分鼓吹して、子供が規律ある勉強に服する様に習慣づけられれば、他日世に立
つた時、その與へられた仕事に専念することは、當然だと思はれます。然らば、

私は試験地獄を肯定し、且これを奨励するものでせうか。否、私は試験を歓迎します。然し地獄は断じて忌避します。私自身でも地獄に行かうとは思いません。ましてあのやはかい心の持主であるところの子供に、さういふ言葉だけでも、聞かせたくないのです。小學校の子供は、何を目的に勉強してゐるか、といひますと、外のことは考へてゐない様です。先生が熱心に教へてゐる。その時兒童は、あれが試験に出たらどう書いていゝかしらとのみ思つてゐるのです。これでは教へる張合もないでせう。そして又、お話に對する感激も何もなくて、試験といふ氣が頭を占領してゐるのは、何といふ可愛相な事です。然るに法令の示す處によれば小學六年の學力あるものは、當然中等學校に這入り得る資格を有つてゐるのです。然らば小學校卒業の時の學力調査が、そのまゝ中等學校入學に役だゝなければなりません。これが動かすべからざる眞實であります。

私はこゝに中等學校當局者に反省を求めたいと思ひます。巷間傳ふる如く、中

等學校一二年修業の勉強をした者が、入學し得る様な問題を出す學校があるとするれば、それはその試験官が非常識の謗を受けても仕方がありますまい。羊頭狗肉を逆にやつてゐるといふのも變ですが、とにかく看板に偽ありといふべきです。又或學校に入學するには、その試験問題が全然満點でなければならぬといふのです。處でその満點組が非常に多く、教師はその字句の末まで吟味して、不合格者を製造するといふのは、問題がやさしいからではないので、むづかしいと解つてゐながら、それだけの勉強をするのだとの事が、もし本當だとしたら、その子供達の勉強振は、全體どんなだつたでせう。結局俄仕組に中等學校一二年間の勉強をした結果と見るより仕方がないとして、そんなに勉強した子供に對し、その知識が、本當に血となり肉となつたでせうか。私はこれ以上いふに忍びません。

上級學校入學率が、學校の價値をきめ受持先生の價値をきめるといふことが、小學校でも中學校でも大問題であり。小學校第六學年は全然準備教育に墮してゐ

るといふことは、本當でせうか。それから中學校そのものは、はじめから高等學校豫備校の觀があるといふことは本當でせうか。これは單に一學校の事でなく、受持教師のことでなく、もつとく大きい次代の國民の、品性問題であり、體格問題であります。小を捨て、大を執り、公の前には私を捨てるのが正しいことでもあります。少くとも中等學校は小學校六年間の成績によつて、入學せしむべきものであります。それによつて親も安心し小學校教師も安心します。唯入學希望の超過數を如何にすべきかは、この場合最考へなければならぬのであります。その爲入學試験問題を難かしくすることは、斷じて正しからざる事であります。もし自分がその當局者ならば入學希望者が十倍二十倍になる學校の當事者ならば——これは各自が大に妙案を持ちよるべきことであります。私は隗より始むる意味で、自分の腹案を書かせて戴きます。先通學區域を調査します。次に小學校成績何番以上といふのを選びます。無論小學校の素質を調査して所謂インチキ成績といふものが若しあるならば、これを避けるのは當然であります。次に學校の主

義方針を承認してゐるかどうかを見ます。次に五年間通學に堪ふる資力と體格とを調べます。無論不事の出來事の起つた場合はやむを得ませんが、大體の見當はつくわけです。これは學校として嚴密に調査した授業料教科書代服装代小遣等の計算書によることは無論です。時々寄附を必要とする學校はこの外にその額を計上しなければいけません。それでも所要數より生徒が多いのならば、當然學級數を増加する外ありません。それが最自然の方法であります。ともかく子供を地獄に墮すことは、何と考へても不合理であります。どんな方法を執つてもこれを救はなければなりません。(十月廿日)

自然にかへれ

我々は自然の寵兒であります。自然は我々に、人として行くべき道を明に示してゐます。日々の行動についても、原因結果の理法を考へて、すべて自然に順應すれば、いゝのであります。一茶のいつた「あなたまかせ」といふのは、かういふ心でありませう。機械の發明も必要です。醫術の研究も結構です。我々は自然の命ずるまゝに、與へられたる能力の限を盡して、神祕を探り、よりよき生活を營みたいものであります。然しそれは、常に自然の意志を奉じ、これを祖述するに止まるものであつて、これと競争するとか、これを征服するとか、いふべきものではありません。夜を征服するといつて、電燈を一杯つける。その爲には莫大の費用が必要なのです。然るに今日では、夜は暗いものといつても、若い人達には、感じが出ません。夜の世界の趣味などは、一つも求めることが出来ません。

月の光、星の色、そんなものは、どうでもいゝのでせう。然しその高價な電燈が、多數の人を幸福にしてゐるならばいゝでせうが、半以上はむだに使はれ、中には街の灯を慕つて、歩いたり飲んだりして來なければ眠れないといふ厄介な人も、随分出て來ます。かうなると、一日中落着いた時間といふものはなくなり、さういふ人に限つて、日光に對する感謝を持たないで、朝寢をして、身體を弛緩させ、三文や四文どころでなく、精神的に多大の損失をしてゐます。その外この頃の文士といふものは、晝寢て夜起きてゐる相です。それから、ビルディングといふものを窺くと、白晝電燈をつけて仕事をしてゐます。これは體のいゝ坑夫生活といふところで、氣の毒に堪へません。昔なら夜と晝と間違へるものは赤坊と相場がきまつてゐたものですが、變れば變るものであります。日出る國の我等は、早起して日の出を拜み、さうして一日中を働いて、落着いた暗の中に安息を得たものです。星を戴いて出で、月を踏んで歸るといふことには、何時間労働といふ苦痛は考へられないで、自然と我との深い關係を喜ぶ心が含まれてゐます。晝

は働くもの、夜は静に休むものであります。健康體には、正しくそれが守られ、又それが健康のもとにもなります。それでなければ、不眠不休の生活をしてゐると同じことになつてしまひます。

この頃は、道の傍に草の影もありません。小かな草花の一つも見出せません。自然そのまゝの土の上に、人が製造した、弾力性のない道路を歩いて、長い間に頭に影響がないものでせうか。私は人の健康上、第一にこれを氣づかひます。それから、電車自動車は縦横に走つてゐます。すべての人は、あゝして走らなければならぬ程、忙しく活動してゐるのでせうか。あのお蔭で、能率が非常に増進してゐるのでせうか。歩く爲の足は、使はないでも身體に影響がないものでせうか。その交通機關が又、遠慮會釋もなく騒音を立てます。その上に人の往來だけでも随分さわがしいのに、ラヂオ蓄音機といふことになると、耳を聳するばかりでありますから、音樂の喜などは忘れてしまつて、音のない世界が求めたくなります。自然の聲に引くらべて、人工の音は何とうるさいものでせう。それから町

に出て見ますと、菓子やと酒やとが、一番目につきまます。お醫者の看板も、至る處にあります。不養生しては、お醫者にかゝるといふ順なのでせうか。病氣は大體自然が癒してくれまます。然し應急手當としてお醫者にかゝるのでせうが、そのお醫者が又、病氣を根本的に直さうとはしないで、何でも局部的の手當をやるので、病原を根絶し得られないばかりでなく、不自然の状態にした爲の副作用が起ります。こつちが直ればあつちが悪くなる。それでは丁度鬼ごつこと同じです。外科醫はさりたがる、齒醫者はぬきたがる。そして内科でもやたらに注射をしたがります。産科醫で鉗子をかけるのがすきで、それで暴利を得て病院を立てた人があるといふ噂も聞いてゐます。これらは暴を以て暴を制すといふ格であります。

「神の作りしものは皆よきなり。感謝して受くる時は、捨つべきものなし」日本の習慣に坐るといふことの出來たのは、いつの頃からでせうか。その坐ることが今迄の作法の根本をなし、又精神修養の一つとなつてゐたのであります。然るに

外國風が急激に吹きすさんだ時、この坐ること迄衛生上悪いといふ理由で、却けられました。然しその却けた人は、坐ることの害を知つて、その利を研究する暇がなかつたのでせう。實際今日の場合、椅子にかけてゐることが、活動の上で非常に効果があります。然しその爲に心の落着がなくなつた事も事實であります。つまり東洋の發達は西洋に比し、精神的でありますから、實生活の上には、あくれをとることがあるかも知れません。然し精神的に生きることが、最後の目的である以上、坐式はいつまでも残つてゆかなければなりません。

次に建築様式を見ますと、都會では殆ど半數ほど、昔の面影を留めません。然し地震國であり、非常に濕潤の度の多い我國に於て、石造とか鐵筋コンクリートとかいふものが果して適當のものであるかどうか、今俄に定められますまい。それを本建築に強ひるのは、火事を恐れる爲でもありませんが、木造建築について今少し研究の餘地がないものでせうか。

それから、人口問題について考へて見ますと、人口の増加を希望しないのは、

生活を思ふからで、國力増進は、兵器の力ではなく、人の力だといふ以上、遞減が決してかゞやかしい未來を持つてゐないことは、確かな事實であります。そこで海外發展が叫ばれ、又それが非常に喜ばしいことには相違ありませんが、今一つの考ふべきことは、自然の法則に従へば、人はすべて自分の食糧を以て生れて來てゐる筈であります。然し食糧といふのは、必ずしも米のことではありません。今の人は米を食べなければならぬ様に思ふから、生活がむづかしいのです。北方で麥を産するところは麥飯が身體に一番あつてゐる筈ですし、南方の人は芋を常食としてゐます。廣島の奥の或村では、栗がどつさり出來ます。栗飯は我々が芋飯を考へる位の價値しかもつてゐません。山には山人の食物が興へられ、海にはそれ相當のものが用意されます。それを生活の根本とすることになれば、一番自然に近い生活が出來ます。これは、職業に於てもいはれることであります。その土地を離れないで、相當の職を求めることを本則とし、然らざれば、遠い異境に出る覺悟が大切で、快樂を求めて都會に集ることは、我を亡ぼし且人を亡ぼ

すものであります。

家庭は和樂の場所であります。よく遊んで食物をおいしく戴いて、そして明日の英氣を養ふ様に注意するのは、主婦の仕事であります。その娛樂の種類は、時によつて色々變りませうけれど、主婦としては、適當に料理を研究し、遊戯音樂を理解し、夫をも子供をも、家庭に留むべきものであります。これが家庭本來の意義で、もしそれだけの力がないなら、家庭の必要はありますまい。どんな娛樂でも、どんな御馳走でも、家庭的になれば墮落しません。身體の怪我が戸外で起るごとく、精神の怪我也やはり戸外で起ります。料理の研究と共に音樂遊戯の研究もし、母は彈き父は歌ひ子は踊るといふ一場面を作りあげるのもいゝでせうしマーチヤン、ダンス、コリント、何でも、よく遊べる様遊ばせる様、多く知るところに努力するのがいゝのです。マーチヤンクラブ、ダンスホール、ゴルフ場それから、カフェー待合貸坐敷、男子がどういふ氣持で、そこに行くかを考へ、明る

く遊べる様にすることが大切です。妻の從順が、場合により明朗を缺く爲、夫の心が他に動くといふことは、あり得ることです。賣春婦の存在は、妻の責任だといつた人があります。随分無理な注文だとは思ひますが、それだけに妻の力が認められてゐることを感謝しなければなりません。

人の性質はそれ／＼でありまして、兄弟でも不思議にちがひます。その心持をすなほに發表することが、我々として大切なことであります。言語舉動のすべては、心を外に表すのです。文字にも文章にも、そのまゝその人の心が表れる時、正しさもあり、力強さもあるものです。髮の結方でも着物の選び方でも、自分の性格身分境遇を表し得るのが、いゝのであります。或息子が母親を評して、何を思つてゐるのか解らない、といつたのですが、その母親は、髮の結方でも何でも、いつでも違つてゐるので、ことによると、氣まぐれで、猫の眼の様に、心が變つてゐるのかも知れません。私が嘗て大阪で或會合に出た時、友人の親切から美粧

倶楽部で當世向だとかいふ髪を結ってもらつたのでした。自分には似あはない、いやだと思つたのですが、親切を無にするのもと思ひ、且、時はなし、仕方なしに、そのまゝ行きました。身だしなみについて、話をしましたら、あとで新聞記者に肩を叩かれました。恐らく俄ごしらへの形が、自己を没却してゐたのでせうと、實に恥しく思ひました。髪一つでも心を表し、思想趣味を表します。人真似ばかりして、主義主張のない様に見えるのは、いけないことです。私は結婚の見合の爲に、美容院に行くのは誤だと思ひます。すなほな心持で、そのまゝを外形に表すことが本當だと思ふのです。細工をしてゐると、いつてもそれを持ちつゞける爲に、過勞しなければなりません。それから話をしなければ解らないといひますが、話はどんな事でも取つくるへます。それより互が互を見合ふ方が、正しい觀察を下すことが出来る筈です。

容儀を整へるといふことゝ、飾るといふことゝは違ひます。この頃の道ゆく人の姿は、何といふ新奇を競つてゐることとせう。ことに女性は、強烈な色彩を以

て飾らなければ、満足が出来ないのでせうか。外國に行くつと、娼婦が貴婦人顔をしてゐると、聞きましたが、我國では、貴婦人が娼婦の眞似をしてゐる様です。大體生活の向上は結構ですが、身分不相應の奢侈は、やめなければいけません。然も商人の手先につかはれ、けばくしい色あひのものをつけ、俗悪極るよそほひをすることは、實に恥しいことです。元來子供は、赤を好み青を好みます。幼稚なものは、目だつものを悦ぶのでありますが、色に對する眼が肥えてくると澁いものゝ中に美しさを見出します。それが高尚な趣味であります。然るに、今日の流行は、宛然赤坊の好む色の取合せと思はれます。穩なものでは感じられない程、神経が麻痺してゐるのでせう。昔は尋常に装ふといふ言葉がありました。その尋常さはまるで見當らないのです。眼を刺激する様なものばかりが、どこにもかしてにも見えますから、それであんなに眼鏡を懸けてゐる人が多いのでせうか。

子供は出来るだけ、自然の中に育てたいものです。東京あたりでは、その爲に

多額の費用で、公園を方々に設けてある様ですが、これはやはり一の不自然で、毎日遊ぶところもない子が、たま〜そんな處に連れてゆかれた處で、よそゆきの氣持になるばかり、又普通には連れてなど行かれないのです。だから家の前の道を、家の延長として遊ばせることが、一番自然であります。遊戯道具の設備は何だといふ必要はありません。たゞ駆けまはつても子供は嬉しいのです。商家の並んでゐる町は、道路を広くして、交通の頻繁な場所にし、裏道は人道だけにし、自由に子供に開放すれば、それで十分なのです。今の様に、どこもかしこも道路を廣げ、少し狭い所でも、自轉車や何か通るといふのでは、危くて遊ばせられません。そして又道で遊ぶことは、禁じられてゐるのです。これは本末顛倒の様に思はれます。交通の必要もさることながら、もつと大切なのは、子供を自然に遊ばせることです。

今日の玩具は既成品ばかりですから、幼稚園の恩物など、いふものが、必要になつて來るのです。子供は周囲の人の眞似をして遊びます。それにはあまり精巧

な材料は、役に立ちませせん。男の子は物指が刀になり鐵砲になります。女の子は、子守の眞似お給仕の眞似、洗濯裁縫料理の眞似。その發明の巧さには驚かされます。眞似を眞似と知つて、それで悦んでゐるのです。それ故、枕に布團を着せたものが、上等の人形より嬉しいのです。洗濯に水は入りませせん。水道をひねる形、ポンプを押す形、それで満足なのです。出來上つたものは、空想の餘地がありません。空想が進めば物を創造することを喜びます。繪をきりぬくこと、箱を張ること、これが天性なのですけれど、この頃はあまりに既成品を持たせすぎますから、玩具とはそんなものだとか考へてしまつてゐます。それでも、變化を好む性質から、動かして遊ぶものは、ことに歓迎される様ですが、これが又高價なもので、然もすぐ狂つてしまふのです。玩具で知識を興へようといふのも、一方法かも知れませんが、あまりそれが多すぎます。繪本でも何でも、成人に面白いものがどつさりあります。摘草をしていゝ場所、蜻蛉が飛んで蝶が舞つてゐる場所、これ等は、繪で見るだけでは、可愛想です。

空想は子供にとつて生命であります。その空想が創造を生み、創造が生産力を興へます。もし自然のまゝに育てあげることが出来たならば、頭の働く人、勤勞を喜ぶ人が、そこに出来上る筈であります。そして子供は、いつか親の眞似をして、親のいゝ後繼者となることが出来るのでありませう。

或時圓タクの運轉手が申すには、「あちらこちらと、随分銅像の多いことあります。自分達だつたら、死んでから銅像を立てられる事なんか希望しません。生前に金を貰つた方が、よほど得です」と。かういふ利那主義が、天下に横行してゐますから、何をしても目の先のことだけ、そして又、共存共榮の考はなく、銘々が自分の利だけ考へる爲、誰も彼も損をしなければなりません。そして依頼心は非常に強いのです。同じ人の言葉に、「弘安の昔、我國は神風によつて救はれたといひます。今日の有様は、單に千萬の兵に攻められてゐる位のことではありません。一日中必死に働いて、然も生活が脅されんとしてゐます。なぜ神風が吹

かないのでせう」と。然し今日神風の吹くわけがありません。その昔元寇が我を犯さんとした時は、舉國一致、この神聖なる金甌無缺の國家を保護せんとの意氣に燃え、その國民全體の心からなる祈によつて、はじめてあの奇蹟が現れたのであります。今日どこにその緊張味がありますか。これを附近の農家に聞いたのであります。「昔は雨乞の祈に必ず効験があつた。然るに今日は決して祈が聞かれない。そして祈る人も亦、その願の空しいことを知つて、しかもそのあとで、一杯飲まうといふのを、楽しんで祈るのである」と。何といふ淺ましい事實であります。今日までの歴史に表れた事實は、常に我國人の天に對する恐と祈との生活を示してゐます。そして今日残つてゐる、偉大なる美術繪畫彫刻建築のすべては、皆宗教心の發露である故を以て名高いので、其他刀劍でも何でも、今日逸品として残つてゐる位のもは、皆精進潔齋無我の境に入つての製品であります。その純一無二の氣持が、再び私どもの心に甦つて來た時、神風も吹き、その他の奇蹟があらはれ、非常時は立派に救はれることでありませう。

今の人はずなほでありませぬ。人を尊敬し、人に服従するといふ様なことがいやなのです。そこで、人が右といへば左といひたい。何でもかでもそのまけをしみを出す。反抗せんが爲に反抗してゐて、それで快いかといふと、やはり不愉快なのです。それよりは、すつかり出直して、すべて自然の命ずるまゝに、良心の指示がまゝに、行つて行つたら、どれだけ氣持がいゝか解りますまい。自己を偽つて飾るといふことは、いけないことです。然し同時に、偽悪といふことも悪いことです。豪傑風の人は、好んで偽悪をふりまはします。現状打破を痛快と叫びます。

「爾曹のうち罪なきもの、まづ彼を石にて撃つべし」人を批評せんとする時、この言葉がはつきり耳に聞えます。全體我々が、人を責る資格のあるものでせうか裁判所は 畏くも 天皇の御名によつて、人の罪を裁くので、これは例外であります。人の良心が麻痺して、意者が弱くなつて、ふら／＼と善からぬ道に引入

られる事は誠に残念な事であり、新聞紙などは、何かしら毎日さういふ事件で、賑はされてゐる様でありますけれど、私共としてこれに對するには、人の弱さを嘆く心持の方が多分に働いて、いゝ譯と思ひます。どういふものか、政治家などの背徳行爲は、そのまゝに濟みますが、教育者のは、とかく噂の種に上ります。これは一方からいへば、利慾の外に超然として、清い生活であるべきものだといふ、冥々の間の約束もあるのでせうが、一つには人がもの珍らしさにいふ時、合槌を打たないといけないといふ考で、やるのではないでせうか。そのくせ人をほめる時には、大抵の場合「然し」といふのがこの手あひなのです。かういふことは、一種の自己を偽る行爲であります。希望社を經營されてゐた人にもせよ、成城學園設立者にもせよ、始には非常な抱負を以て、理想の許に、やはりはじめられたことで、その時その訓誨に涙した人達は、その點については、いつまでも恩を感じなければなりません。又衷心それを忘れる筈はないのです。闇の花と咲いたといふ女教師でも、不正事件で教育界を葬られた人達でも、いゝところと悪いと

ころとは、はつきり區別されませうし、又それが差引せらるべきものでもありません。まけをしみは斷然やめませう。そしてすなほな心に返つて、靜に人の行爲を見る様にしたいものです。

「爾曹たがひに足を洗ふべし」性善とか、性惡とか、その説の可否は私は知りません。然し少くとも孟子のいつた惻隱の情といふのは、本當だと思ひます。それが自然の心の動であるならば、私どもはもう一度、すべてを見直さなければなりません。あらゆる宗教は愛を教へます。そして互の自然の愛はやはりこれを要求してゐます。然るに憎みあふ心持が、至る處に見えてゐるのは、利慾にくらまされてゐるからであります。私はまづはじめに、女性同志が、もつと胸襟を開いて、大きな團結を作りたいと思ふのであります。そして互に助けあひ救ひあひ、獎勵しあふことが出来たら、どんなに世の中が美化されてゆく事でありませう。如何なる場合にも「愛なくば鳴る鐘や響く鑢鍬の如し」であります。「愛は寛容

にして慈悲あり。愛は嫉まず、愛は誇らず、驕らず」といひます。女性が愛の化身であるならば、この實行の出来ない筈はないのであります。最近の女性の著書として小泉郁子氏の「明日の女性教育」と、吉村千鶴子氏の「公民教育」とによつて我々は随分教へられる處がある筈だと思つて、圖書館を一寸窺いて見ました處、日比谷では小泉氏の書を購入した六月十九日より一ヶ月間に閲覧者十二人、吉村氏のはまるきり本もないとの事、上野の方は整理中で解らないのですが、大體かういふ書には、興味も持たず調べてもないらしいのです。圖書館内に女の事務員が見えないから、かういふ結果になるのかも知れませんが、これは、女性の著書をつまらないと思ふのか、お互の軽い嫉妬心から近づかないものか、それとも又、かういふ問題を不必要と考へてゐるのか解りませんが、とにかく残念なことでありませう。それから、女教員會の時のお話ですが、森律子氏が「藝ごとの上に女性の後援を望む」といふ様なことを承りました。女性が女性を後援し保護する場合は、その藝に進歩が現れる。男性がその後援の位置に立つ時、そ

ここに墮落が起るといふ意味であつたと思ひます。實に考へなければならぬことと思ひます。

次に世の中のすべてが相對的になつてゐることは、その必要があるからで、いづれがいゝといはるべきものではない筈です。二つのものゝ存在は、侵しあふ事によつて、すべてが破壊せられ、働きかけることによつて、進んでゆくのであります。男子と女子とは、互に愛し互に敬することによつて、國が進歩します。公民権も參政權も、女子が當然得べきものであり、興へられる筈のものではないことは、誰も考へてゐながら、一寸癢にさはるといふので、放置して置く、男性の所謂虚飾の生活は、氣の毒な事であります。それから勞資問題でも白人對黄色人問題でも、まけをしみを除き、自然の姿で眺めて見れば、すべてが釋然たるものでせう。その爲に憎みあひ、軍備を擴張し、世界を戰禍に引入れることは、あまりにも愚な努力であります。

恐れ多いことではありますが

皇祖天照大神、天壤無窮の神勅を下し給うてから、こゝに三千年、嚴密な意味に於ける世界最古の君主國の、國民としての誇を忝うしてゐる私どもは、自然の情として、忠君即愛國を高唱してゐます。この氣持は誰の胸にも瀾漫してゐる筈であります。然るに、外國の歴史を見ますと、愛國の故に君をなみする者があり、讀むごとに人事ならず、涙が催されるのであります。然し、既にさういふ例がありますと、忠君と愛國とを別のものとして、考へる人が出來、且いづれを先にすべきかに、迷ふ人も出來るのであります。今日盛に問題視される左傾派中、さういふ疑問を持つて、解決に苦しんでゐた人も多しと思ひます。この程度のもものは、必ずしも危険視する必要はなく、懇切に教へ導くべきものではありませんまいか。

然し家の爲に父を追出すといふ劇が、その結末を忘れて、多數に共鳴される様なことは無論面白からざること、國は君を中心とすること、君に對する信仰、

現し御神と信ずる心が、動かすべからざるものであることを、知らしめることが我國の教育の根本問題でなければ、なりません。それには、小細工を弄する様なやり方はいけません。教へる人自身が、眞の皇室中心の信仰を以て、自然に直截に、事實を物語れば、自分の心情の流露によつて、生きた精神が傳へられるのであります。

我々は便宜上やむを得ず、今日或生活を營んでゐます。色々な點に不自然な生活を繰返してゐます。然しそれを以て満足することは出来ません。もし理想に近づかんとして、然も近づき得ぬなやみであるならば、そこに漸次光明を認める可能性がありますが、根柢なき利那主義は斷じて排斥しなければなりません。要は必然生活に、一步々近づかんとする道程でなければなりません。

(十月廿一日)

跋

私がこの筆を執りはじめて、いつしか五十日も経過しました。あれもこれもと思ひますが、忙しい毎日を過してゐます私は、大分事務の濫滞を感じ、一先筆を擱くことに致します。私は理論をならべるつもりはありませんでした。實際問題が、私の申さうとすることを證明してくれてゐます。執筆後ことに毎日の新聞記事を注意して見てゐますが、前に記したことを裏書する様な事實が、時々起つてゐる様であります。然し社會は複雑であります。読んで下さる方の中、共鳴して下さる處もあります。反駁して下さらうといふ個所も多くあります。存じます。私は謙虚な心持で、皆様の御教示を待ち、私自身の大なるかてとしたいと考へるものでございます。